

ハイデルベルク信仰問答から学ぶ 聖書の基本的な教え
波崎キリスト教会牧師 石原伸光

目次	1
解説 信仰告白と信仰問答	2
ハイデルベルク信仰問答	
序 ただ一つの慰め	問 1－2 2
第一部 人間の悲惨さ	問 3－11 4
第二部 人間の救いについて	問 12－85 7
ただ一人の仲保者	問 12－19 7
まことの信仰・使徒信条	問 20－25 9
父なる神について	問 26－28 10
子なる神について	問 29－52 12
聖霊なる神について	問 53－64 21
聖なる礼典について	問 65－68 28
聖なる洗礼について	問 69－74 29
イエス・キリストの聖晩餐について	問 75－82 31
鍵の務めについて	問 83－85 34
第三部 感謝について	問 86－129 35
全生活にわたる感謝	問 86－91 35
十戒について	問 92－115 37
祈りについて	問 116－129 49

参考文献

ハイデルベルク信仰問答(吉田隆訳：新教出版社)
ハイデルベルク信仰問答(竹森満佐一訳：新教出版社)
ハイデルベルク信仰問答解説(東野尚志、鎌倉雪ノ下教会)
ハイデルベルク信仰問答から学ぶキリスト教信仰の中心(保浦宏規、土浦めぐみ教会)
ハイデルベルク信仰問答講話(加藤常昭、教文館)

ハイデルベルク信仰問答(吉田隆訳：新教出版社)を用いて学んでください。

解説 信仰告白と信仰問答

「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」ローマ 10：10

2009年の1月から7月まで、波崎キリスト教会の礼拝において、私たちの教会が属する日本同盟基督教団の信仰告白を学びました。信仰告白は、私たちの教会が、そして教会の一員である私たちが何を信じているのかをまとめた信仰告白文です。信仰告白は、聖書の基本教理をまとめたものであり、聖書理解の原則ともなるものです。教理をしっかりと理解しておくことによって、私たちは正しい聖書解釈をすることができます。

ところで、宗教改革の時代に、プロテスタント教会は自分たちの信仰告白を作ると共に、信徒が聖書と信仰告白の内容をよく理解するためのガイドブックとして、信仰問答(カテキズム)を作成し、信徒教育のために用いました。16世紀には数百の信仰問答が作成されたということです。今日、日本語に訳されている有名な信仰問答とその内容と順序は次のようになります。

ルターの大小教理問答書	十 戒・使徒信条・主の祈り・聖礼典	(1529・ルター派)
ジュネーブ教会信仰問答	使徒信条・十 戒・主の祈り・聖礼典	(1542・改革派)
ハイデルベルク信仰問答	使徒信条・聖礼典・十 戒・主の祈り	(1563・改革派)

信仰問答の内容を見ると順番は違っても、十戒・使徒信条・主の祈り（この三つを^{さんようもん}三要件と言う）と聖礼典を学ぶように構成されていることがわかります。この信仰問答の内容から見ても、十戒・使徒信条・主の祈りの意味をよく理解することが、信仰の成長のために必要であることがわかります。

一方、各信仰問答が聖礼典を取り上げているのは、幾つかの理由があります。一つには、聖礼典の意味を教え、その重要性を確認することです。二つ目には、ローマ・カトリック教会の聖礼典（七つのサクラメント）とプロテスタント教会の聖礼典（洗礼と聖餐の二つのみ）の違いを確認することです。そして、三つ目には、当時、聖餐論において教派間で理解の違いがあったことが理由にあげられます。

また、洗礼論については、ルター派、改革派ともに「幼児洗礼」を支持する立場で上記の信仰問答を作成しています。そのため、今日、「信者の洗礼」を支持する立場を採る多くの福音派教会にとっては、上記の信仰問答を用いて学ぶことをためらう理由になっているのではないかと考えられます。

しかし、全体的な内容は、聖書のみ、信仰のみ、恵みのみ、万民祭司という福音のプロテスタント信仰に立った信仰問答なので、私たちの信仰の成長のためにも大いに有益です。また、立場の違いを理解することで、自分たちの信仰理解を深めることもできますし、違いを超えた宣教協力のための助けにもなると思います。

この小冊子は、2009年8月から2010年9月まで、祈禱会で学んだハイデルベルク信仰問答の学びをまとめたものです。ハイデルベルク信仰問答は、改革派神学の傾向が見られるものの、当時の教派間の神学的違いの融和を図ることを目的に、できるだけ中立的な立場で聖書の内容を教えるために作られました。ですから、ハイデルベルク信仰問答を学ぶことによって、礼拝で学んだ同盟教団の信仰告白をさらに深く理解することができると思います。この小冊子は、1ページずつ学べるように編集されています。この小冊子が信仰理解の助けとなることを祈ります。

ハイデルベルク信仰問答から学ぶ聖書の基本的な教え

宗教改革後、プロテスタント教会は信仰告白と聖書の基本教理を理解するためのガイドブックとして、多くの信仰問答（カテキズム）を作成しました。ハイデルベルク信仰問答もその一つとして、1563年に今日のドイツ南西部にあたるプファルツ領（都はハイデルベルク）の王フリードリッヒ3世のもとで作成されました。神学的にはカルヴァン主義（改革派）の傾向を見るものの、できるだけ中立的立場を取り、聖書の基本教理を問答形式によって理解し、信仰告白できるように作られました。

ハイデルベルク信仰問答の中心テーマは「慰め」（序 問1～2）です。この「慰め」に生きるためには、人間の悲惨（第1部 問3～11）、救い（第2部 問12～85）、感謝（第3部 問86～129）の3つの知識が必要であり、それらの知識を学べるように構成されています。また、第2部では使徒信条、第3部では十戒と主の祈りを取り上げ、全体を52主日で学べるように構成されています。

序 ただ一つの慰め

第一主日

問1

①唯一の慰め IIコリント1：3～5

慰め（パラクレシス）とは、もともと「強めること、支えること」を意味します。神はどんな苦しみの中にあっても、私たちを強め、支え、慰めてくださる慰めの神です。その神が私たちにくくださる唯一、究極の慰めとはどのようなものなのでしょうか。

②主イエスのもの ローマ14：8

私たちの唯一の慰めは、私たちがイエスの尊い血潮によって罪が完全に贖われた結果、もはや自分自身のものではなく、主のものとされていることです。そのことを私たちが知るとき、主のものであることの幸いを知り、神の深い慰めを得ることができます。

③神の守り ローマ8：28

父なる神は、神の子どもでもある私たちの地上での生涯を守り、すべてのことを働かせて益としてくださいます。このことを知るとき、私たちは地上の生涯のすべてを神に委ねていけばいいことを教えられ、大きな慰めを得ることができます。

④聖霊の保証 エペソ1：14

聖霊なる神は、私たちに永遠のいのちと天の御国を保証してくださいます。また、聖霊の助けによって、私たちは主のために喜びに満ちて生きまた死ぬことができます。やがて天において私たちの救いが完成

することは、私たちの大いなる慰めです。

問 2

第一部 人間の悲慘さ

第二主日

問 3

①自分の悲慘さ ローマ 3 : 20、7 : 24

私たちは、さまざまな経験を通して、ある程度自分のみじめさを知ることができます。しかし、本当の自分のみじめさに気づくためには、神の律法による以外にありません。律法は、聖なる神と神のみこころをはっきりと示すことによって、人間の罪を徹底的に暴きます。そして、罪の中に生きている悲慘さを私たちに教えます。律法という正しい完全な神の基準を通して、私たちは自分の罪を示され、自分の悲慘さを悟り知ることができるのです。

問 4

②神の律法 マタイ 22 : 37－40

キリストは、律法全体が神を愛することと隣人を愛することの二つの戒めに要約できると教えられました。律法は私たちに、神を愛し隣人を愛することを求めています。そして、キリストはこの律法の戒めをもって、私たちの心を照らしさばかれます。私たちはこの律法の基準にかなって生きているかが問われます。律法はまた、罪をさばく権威を持っておられるキリストだけが、罪を赦す権威をもっておられるお方であることを私たちに教えます。

問 5

③律法を守れない自分 テトス 3 : 3

私たちは、律法を完全に行うことができません。そればかりか、神の律法に照らせば、私たちは生まれつき神と隣人を憎む傾向にあるのです。私たちはこの答えは言い過ぎではないかと思うかもしれませんが、しかし、神から離れ、罪の中に生まれた人間は、生まれながら自己中心であり、神に敵対し隣人を憎む罪の性質を生まれつき持っているのです。私たちが、それほどまでに愛のない人間であること、また自分のうちに宿る罪に徹底して気づくとき、自分の悲慘さを悟る者となります。

第三主日

問 6

①神は人を良いものに造られた 創世 1 : 27、エペソ 4 : 24

問 5 では、生まれつき人間は、神と隣人を愛するのではなく、むしろ憎む方へと心が傾くものであることを見ました。しかし、神は人間をそのように邪悪で歪んだものとして造られたのでしょうか。答はいいえです。聖書によれば、神は人を良いものとして造られたのです。即ち、神は人を神のかたちに創造し、人に神の義と聖という性質を与えられました。人は神を正しく知り、神を愛し、神と共に生き、神を賛美する者として造られました。ここに人間のすばらしさと尊さの出発点があります。ところが、今の人間の状態は歪んだものになっています。それはなぜでしょうか。

問 7

②原罪 創世 3 : 6、ローマ 5 : 12

聖書は、人間の腐敗した性質の原因は、アダムとエバの堕落と不従順にあると言っています。アダムとエバの神に対する不従順や他人のせいにして自分を守ろうとする自己中心の姿は、私たちの罪の現実を代表するものです。このアダムとエバの最初の罪である原罪を、私たちも生まれながら身に負っているのです。その結果、私たちは生まれながらにして神の前に罪人であり、成長するに従って他人から教えられなくても自分から罪を犯すのです。

問 8

③全的堕落 創世 6 : 5、ヨハネ 3 : 3－5

すべての人はアダムの罪を受け継いだ結果、人間の本性のあらゆる部分が罪の影響を受けてしまいました。その結果、人の心にはかることがみな、いつも悪いことだけに傾くようになってしまいました。そして、人間の中には神の義を満足させるほどの良いものが何もなく、聖なる神の前で全く堕落している状態となってしまいました。このことを全的堕落といいます。しかし、神は、聖霊による再生、即ち、キリストによる新生によって、罪の中に全く堕落している私たちを贖い出すという希望を備えてくださっています。神は、新生の救いによって、人を堕落の状態から救い出して神の国に入れ、神のかたちと

して再生し、神の義と聖を持つ者に造り変えてくださいます。

第四主日

問 9

①人間の責任 ネヘミヤ9：33

すべての人は罪を犯した結果、律法を完全に行うことができなくなりました。しかし、だからと言って、神が人に律法を要求されることは不正なことではありません。なぜなら、神は人が律法を行える良いものとして造られたからです。人は神から与えられた自由意志をもって、神と人を愛し、神の律法を守って生きることができたのです。ところが、人は悪魔にそそのかされて、与えられた自由を間違えて用い、神にそむきました。その途端、人は罪の奴隷となってしまいました。しかも、アダムはすべての人の代表なので、すべての人が罪の中に生まれ、罪を犯す者となってしまいました。罪に対する責任はひとりひとりの人間にあるのです。

問 10

②神のさばき ガラテヤ3：10

神は本当にすべての人を罪のゆえにさばかれるのでしょうか。また、神は罪を罰せずに見逃されることはないのでしょうか。この問いに対する聖書の答えは、神は必ず罪を犯したすべての人をさばかれるということです。神は正しいお方なので、罪をいい加減に取り扱って見逃すお方ではありません。むしろ神は人間のどんな罪についても激しく怒っておられ、罪に対する正しいさばきを行われます。聖書に啓示されている最後の審判は必ずあるのです。

問 11

③神の義と神の愛 ガラテヤ3：13

神はあわれみ深い愛なるお方です。と同時に、神は聖なる義なるお方でもあります。義なる神は罪を見逃さず、罪人を永遠の刑罰をもってさばかれます。私たちは、神のさばきと律法の呪いの厳しさを、十字架の主を仰ぎ見ることによってのみ知ることができます。十字架を仰ぐとき、私たちは自分の罪の大きさと自分が受けなければならなかった神のさばきの厳しさを知るのです。また、神にそむいた人間の悲惨さのたどるべき道を知るのです。しかし、人間の罪の悲惨さと神のさばきの厳しさを知ることが、十字架によって示された神のすばらしい救いを知る出発点となるのです。

第二部 人間の救いについて

ただ一人の仲保者

第五主日

問 12

①罪の完全な償い マタイ5：26

第1部では、人間の罪の悲惨さと神のさばきについて学びました。第2部(問い12～85)では人間の救いについて学びます。私たちはどうしたら神のさばきから逃れ、再び墮落前の本来の人間に与えられていた神の恵みにあずかることができるのでしょうか。そのためには、神の義を満たすために、自分自身が他のものによって罪の完全な償いをしなければなりません。罪の完全な償いなしには、私たちは神のさばきから逃れ、再び神の恵みにあずかることはできないのです。

問 13

②自分では償えない マタイ6：12

私たちは自分自身で自分の罪を完全に償うことはできません。それどころか、私たちは毎日罪を犯し続け、罪を増し加えている存在です。神に背を向け、自分勝手に生きている罪人の私たちは、どんなに努力しても、自分の力で罪を償って神のもとに立ち返ることはできないのです。

問 14

③他の被造物も償えない 詩49：8

他の被造物も私たちの罪を償うことはできません。なぜなら、神は人間が受けるべきさばきを他の被造物に加えることを望まれず、また、他の被造物も人間の罪を償うことなどできないからです。このように、私たちは自分自身で自分の罪を償うこともできず、他の被造物も償うことができません。

問 15

④完全な仲保者である救い主 ヨハネ1：14

私たちは、人間の罪を完全に償うことができる救い主を求める以外に、神のさばきから逃れ、再び恵みにあずかる道はありません。では、そのような救い主の条件は何でしょうか。第1に、救い主はまことの正しい人でなければなりません。人間の罪を償うのは、人間でなければならないのです。第2に、救い主はまことの神でなければなりません。なぜなら、まことの神以外に、神の義を満足させる罪の完全な償いができるお方はいないからです。まことの人であり同時にまことの神であるお方こそ、唯一救い主としてふさわしいお方なのです。

第六主日

問 16

①まことの正しい人間 ヘブル2：17

問15では、神と人との仲保者である救い主は、まことの正しい人間であると同時に、まことの神でなければならないことを学びました。ではなぜ救い主はまことの正しい人間でなければならないのでしょうか。それはまず、人間の罪の償いは、他の被造物が代わりに行うことはできず、人間が行わなければならないからです。しかも、罪人が他の罪人の償いをすることはできないので、救い主は罪のない全く正しい人間でなければならないのです。

問 17

②まことの神 ピリピ2：6，7

ここでは、救い主がまことの神でなければならない理由を2つあげています。1つは、神のさばきを人間として耐えるためには、神としての力が必要だからです。神の力によらなければ耐えられないほど、神の怒りは激しいのです。また、それほど私たちの罪は大きいのです。2つ目は、救い主は罪の贖いを成し遂げて、私たちのために神の義と永遠のいのちを獲得し、再び私たちに与えるためには、神としての力が必要だからです。救い主がまことの神でなければ、神の怒りを耐え忍び、贖いを成し遂げて、私たちに神の義と永遠のいのちを与えることはできないのです。

問 18

③イエス・キリスト I テモテ2：5，6

神は、まことの神でありまことの人である仲保者イエス・キリストを、私たちにお与えくださいました。イエス・キリストは、まことの神でありまことの人として、十字架で私たちの罪を負い、神の怒りに耐えて、完全な罪の贖いを成し遂げてくださいました。そして、よみがえられたキリストは、神と人との唯一の仲介者となられ、ご自分を信じる者に神の義と永遠のいのちを与えて、神のもとに立ち返らせてくださるのです。

問 19

④聖書の証言 ヨハネ5：39

聖なる福音とは聖書のことです。私たちは聖書によって、イエス・キリストが唯一まことの救い主であることを知ることができます。旧約聖書はイエスが救い主であることを預言によって証しし、新約聖書は預言の成就を記して、イエスが救い主であることを証ししています。聖書は、私たちがイエスは救い主であることを知り、イエスを信じて永遠のいのちを得るために書かれました。

まことの信仰・使徒信条

第七主日

問 20

①救いの条件 ヨハネ3：16

キリストが十字架で死なれたことによって、すべての人はすでに罪が赦されて救われたのでしょうか。そうではありません。キリストの死によって、神はすべての人に対するご自身の愛を明らかにされました。ですから、十字架の救いのみわざはすべての人に備えられています。しかし、私たちが救われるためには、キリストを自分の救い主として信じる必要があります。キリストの十字架の贖いを信じ、キリストを自分の救い主と信じる人だけが救われるのです。

問 21

②まことの信仰 エペソ2：8

救いに至るまことの信仰とは、第1に聖書が語っていることをすべて真実であると確信し、認識することです。みことばに啓示された神の約束をすべて信じるのがまことの信仰です。第2にまことの信仰は、みことばに対する心からの信頼です。この信頼は、私たちが福音を知った時に与えられます。キリストは私のために死んでくださったということがわかる時、神とキリストに対する個人的な信頼が心に

与えられ、神のことばに対する心からの信頼が与えられます。それは聖霊のみわざであり、全くの神の恵みです。

問 22

③福音 I コリント 15 : 1 - 5

聖書はイエス・キリストの福音を啓示しています。福音の中心はキリストの十字架と復活による救いです。私たちは福音を信じることによって、罪赦されて救われます。また、福音を宣べ伝えることが伝道です。そして、この福音を要約した信仰告白が、次に学ぶ使徒信条です。

問 23

④使徒信条 マルコ 1 : 14, 15

使徒信条は、いつ、どこで、だれが作ったのか正確にはわかりませんが、原型となる洗礼告白文が2世紀後半には用いられていました。その後、長い時間を経て現在の定式になりました。宗教改革者は、使徒信条を教理の解説の中心に据えて、プロテスタント信仰の正統性を明らかにすると共に、信仰問答に入れて信徒教育のために用いました。

第八主日

問 24

問 25

①三位一体 申命 6 : 4、II コリント 13 : 13

三位一体とは、「父、子、聖霊の三つの位格が唯一まことの永遠の神である」ということです。使徒信条が三つの部分に分けられるのは、神が三位一体であることに基づいています。私たちの信じる神が、父、子、聖霊なる一人の神であるので、私たちの信仰告白もそれに対応する構造になっています。父なる神は私たちを創造し、子なる神は私たちを贖い、聖霊なる神は私たちを聖化してくださっている。このように、三位一体の神は、私たちの創造と贖いと聖化に個人的に関わっておられることを告白するのです。

父なる神について

第九主日

問 26

②天地創造 創世 1 : 1, 2

父なる神の天地創造の御業は「無からの創造」でした。神のかたちに造られた人間も創造力が与えられていますが、私たちは材料を用いて物を作ります。しかし、神は無からすべてのものを創造され、今も永遠のみむねと摂理によって支配しておられます。すべてのものは、私たち一人一人を含めて偶然に存在しているのではなく、神が意味と目的をもって造られたので、存在の意味と価値があるのです。

③わたしの父 マタイ 6 : 9

父なる神は、御子キリストのゆえに「わたしの神、わたしの父」となってくださいました。イエスは私たちに、「天にいます私たちの父よ。」と神に呼びかけて祈るようにと教えてくださいました。私たちは、イエスの十字架の贖いによって神の子どもとされ、神は私たちの天の父となってくださいました。この新しい神との関係こそ、私たちが神により頼み、信じて疑わないと告白する信仰の土台です。

④万事を益とする神 ローマ 8 : 28

父なる神は、神の子どものためにすべての必要を備えてくださると約束しておられます。また、たとえ現実の生活の中で不幸や困難が降りかかってきても、神はご自分の子どものためにすべてを働かせて益としてくださると約束してくださっています。神は全能者であると共に、私たちの真実な父であるのでそのことをしてくださるのです。

第十主日

問 27

①神の摂理 ヨブ 2 : 10

摂理とは、神がみこころを行うために、すべてのことを導き、用いられる神の働きのことです。信仰問答は、摂理を「全能かつ現実の神の力」と説明しています。神はみこころを行うために、今も全能の力をもって働いておられます。すべてのことは今も神の支配のもとにあり、全能の神の御手より来なのです。それは、私たちにとって良いことも悪いこともすべてです。何事も偶然に起こるのではなく、神の摂理の中で起こるのです。

②父親らしい御手 ヘブル 12 : 7

すべてのことが神から来ることを頭で理解していても、現実不幸なことが私たちに起こると、それを神から与えられたものだ、すなおに受け止めることは難しいことでもあります。しかし、そのような時、摂理の神は全能者であると共に、私たちを愛する父なる神であることを覚えることが大切です。「父親らしい御手によって私たちにもたらされるのです。」父なる神は私たちをいつも子として扱ってくださり、私たちの益になるように、試練さえも用いられるのです。

問 28

③順境と逆境 伝道 7 : 14

順境の日も逆境の日も、創造者なる神の摂理の中にあることを覚えることは、私たちに大きな益をもたらします。順境の日には素直に喜び、神に感謝し、逆境の日には神の前に静まり忍耐し、将来については父なる神の幸いな計画を確信して、希望を持って歩むことができます。私たちには後のことはわからなくても、神は先々まで見通して、みこころを実現させるために働いておられます。神の摂理を信じるなら、私たちは神の御手にすべてをゆだねて歩むことができるのです。

④圧倒的な勝利者 ローマ 8 : 37 - 39

私たちの父なる神は、私たちすべてのためにご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡されたお方です。この神が、私たちを神の愛から引き離すために、不幸な出来事を与えられることは決してありません。父なる神は、神の子どもである私たちを訓練し成長させるために、試練を与えられるのです。神は常に、私たちのために最善を計画し備えておられます。神の摂理を信じる者は、どんな試練の中にあっても、神の愛から引き離されることはなく、圧倒的な勝利者となるのです。

子なる神について

第十一主日

問 29

①罪からの救い主 マタイ 1 : 21

問 29 ~ 52 は子なる神についての問答です。まず、イエスの名前の意味から問いかけられます。イエスとは、「救い」または「主は救い」という意味でヘブル語のヨシュアと同じ意味のギリシャ語の名前です。当時、イエスは一般に付けられていた名前でした。しかし、御使いがヨセフに、生まれてくる男の子にイエスと名付けよと言った時、「この方こそご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」と言って、特別な名前の意味を教えました。神の御子は「罪からの救い主」なので、イエスという名前が付けられたのです。

②唯一の救い主 I テモテ 2 : 5

私たちを罪から救ってくださる救い主は、神の御子イエスただ一人です。唯一の神は、ご自分の御子イエスを、神と人との唯一の仲介者としてお与えになりました。御子イエスだけが、十字架ですべての人の罪を完全に贖い、ご自分を信じる者を罪から救ってくださる救い主です。イエス以外に私たちを罪と滅びから完全に救うことができる救い主はいないのです。

問 30

③イエス以外にも救いを求めること ガラテヤ 5 : 4

イエスを信じているという人が、もし、イエス以外のところにも救いを求めるなら、その人はイエスの救いを不十分なものとみなしているものであって、結局のところイエスを救い主と信じていないことになります。聖人崇拝や人間の善行やその他イエス以外にも救いの根拠を求めることは、完全な十字架の救いを否定することになり、さらには唯一の救い主イエスを否定することになるのです。

④この方以外に救いはなし 使徒 4 : 12

イエスを唯一の救い主と信じるとは、イエスだけに救いを求め、イエス以外のところには救いを求めないことを意味します。イエスは私たちを罪から救うために、十字架の死によって完全な贖いを成し遂げてくださいました。だから、私たちは、自分の罪を悔い改め、イエスを救い主と信じる信仰によって、完全に救われるのです。救われるために他の何かを付け足す必要は全くないのです。もし、イエスの救いに何かを付け足すならば、唯一の救い主イエスを否定することになるのです。

第一二主日

問 31

①キリスト、油注がれた者 マタイ 3 : 16

ギリシャ語のキリストは、ヘブル語のメシヤと同じ「油注がれた者」という意味です。旧約時代、預言者、祭司、王となる者は、油を注がれ聖別されて任職されました。キリストはバプテスマを受けられた時、聖霊の油注ぎを受けて、救い主としての公生涯に入られました。キリストは預言者、祭司、王の3つの職務を持たれる救い主です。

②最高の預言者 ヘブル 1 : 1、2

預言者は、神から神のことばを預かり、民に語る人です。旧約時代、多くの預言者が神のことばを人々に語りましたが、キリストは私たちの最高の預言者として、神のみこころを余すところなく、究極的に私たちに啓示してくださいました。

③唯一の大祭司 ヘブル 9 : 11、12

キリストは私たちの唯一の大祭司として、ご自分のからだを罪のためのいけにえとしてささげ、完全な罪の贖いを成し遂げてくださいました。そして、3日目によみがえり、天に昇られたキリストは、いつも生きていて、私たちのためにとりなしてくださいます。

④永遠の王 ヨハネ 18 : 37

キリストは私たちの永遠の王として、みことばと聖霊によって、私たちを治め、導いてくださいます。また、ご自身の救いの中に私たちを守り、保ってくださいます。

問 32

⑤信仰によってキリストと一つにされる I ペテロ 4 : 16

「キリスト者」とは、最初は教会外の人たちが付けたあだ名でしたが、やがて信者自らが「キリスト者」と名乗るようになりました。キリスト者とは、キリストを信じる信仰によって聖霊の油注ぎを受け、キリストと一つに結ばれ、キリストのからだなる教会の一員とされた人のことです。

⑥キリスト者の3つの務め I ペテロ 2 : 9

神はキリスト者に、キリストと同じ3つの務めを与えられました。まず、キリスト者は預言者として、主の御名を宣べ伝えます。次に、祭司として自分自身を神にささげ、神に仕えます。さらに、王としてこの世においては罪や悪魔と戦います。そしてやがて天においては、キリストとともに全被造物を支配します。

第一三主日

問 33

①神のひとり子 ヨハネ 1 : 18

キリストは三位一体の神として、肉体をとってこの世に来られる前から、永遠に子なる神です。キリストだけが永遠からの本来の神の御子であることを表すために、神のひとり子と呼ばれます。父なる神は、私たちを愛し、私たちを救うために神のひとり子をお与えくださいました。世に来られたキリストは、父なる神と神のみこころを完全に解き明かされ、最後に私たちのためにご自身のいのちをささげてくださいました。

②神の子ども ヨハネ 1 : 12

キリストが永遠からの本来の神の御子であるのに対し、私たちはキリストが成し遂げてくださった救いのゆえに、恵みによって神の子どもとされました。この神の恵みは、私たちがイエス・キリストを自分の救い主として信じる信仰によって与えられます。神は、キリストを信じる者に、神の子どもとされる特権をお与えになったのです。

問 34

③我らの主 I ペテロ 1 : 18、19

イエス・キリストは、金や銀ではなく、傷もなく汚れもないご自身の尊い血によって、私たちを罪の中から贖い出してくださいました。そして、悪魔の支配下から私たちを救い出し、御子の支配下に移してくださいました。私たちは、ご自身のいのちをもって私たちを救ってくださった救い主イエスを「我らの主」と告白し、主イエスに従います。

④主の民 I ペテロ 2 : 9、10

私たちはキリストに贖われ、体も魂もすべてを主のものとされ、神の所有とされた民となりました。キリストは私たちの主であり、私たちは主の民です。私たちは自分の力では、だれも預言者、祭司、王としてのこの世の務めを果たすことはできません。しかし、キリストが私たちの主であり、私たちが主の民、神の子どもとされているので、神の恵みによって、神から託された使命を果たすことができるのです。

第一四主日

問 35

①処女降誕 マタイ 1 : 23

マリヤは聖霊によって神の御子のみごもり、イエスを生みました。イエスはまことの永遠の神であり、人間として生まれてもまことの神であり続けるお方です。また、イエスはまことの神であると同時に、マリヤの血と肉からまことの人間性をお取りになったので、私たちと同じまことの人となりました。処女降誕によって、イエスのうちにまことの神とまことの人との二つの本質が調和して存在することが可能となったのです。

②罪のない人間 ヘブル 4 : 15

イエスがマリヤから生まれ、またマリヤの夫ヨセフを人間の父として育ったことは、救い主はダビデの子孫として生まれるという預言の成就でした。しかし、イエスには私たちとは決定的に違う一つのことがあります。それはイエスだけが罪のないお方であるということです。なぜなら、イエスは聖い神の御子が聖霊によって宿り、処女マリヤより生まれたまことの人だからです。

問 36

③私たちの仲保者 I テモテ 2 : 5、6

まことの神であり、罪のないまことの人となられたイエスは、唯一、神と人との間の仲保者としてふさわしいお方です。聖いイエスだけが神の前に立つことができます。また、すべての人の贖いの代価としてご自身をお与えくださったイエスだけが、神の前で私たちのためにとりなすことができる唯一の大祭司だからです。

④私の罪を覆われるお方 I ヨハネ 3 : 5

イエスの救いは、広い意味で「私たちのため」というだけでなく、個人的に「私のため」に与えられる救いです。イエスはご自身のいのちを犠牲としてささげることにより、完全な罪の贖いを成し遂げてくださいました。このイエスを個人的に「私の救い主」と信じる時に、「私の罪」は神の前に覆われ、取り除かれます。これこそ、イエスを信じる者に与えられる最大の益なのです。

第一五主日

問 37

①キリストの受難 マタイ 27 : 46

第15主日は「ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ」の箇所の間答です。イエスは地上での生涯の、とりわけ最後の時に、十字架の苦しみを受けられました。イエスは十字架上で、全人類の罪に対する神の怒りをご自身の体と魂において負われました。そして、私たちの身代わりとなって神のさばきを受けられ、父なる神から見捨てられて死ぬという苦しみを負ってくださいました。

②キリストの受難による救い I ペテロ 2 : 24

イエスは、十字架上で、唯一のいけにえとして、すべての人の罪に対する神のさばきを受け、その苦しみを通して完全な贖いを成し遂げてくださいました。その結果、イエスを信じた者はすべての罪が赦されて義と認められ、永遠の刑罰から解放されました。そして、永遠のいのちが与えられ、神の恵みによって義のために生きる者に変えられたのです。キリストの打ち傷のゆえに、私たちはいやされたのです。

問 38

③二重のさばき ヨハネ 19 : 15、16

キリストがさばかれたというとき、そこには二重の意味があります。一つはこの世の裁判官ローマ総督ポンテオ・ピラトによるさばきです。ピラトはイエスが無罪であると知りつつ、民衆の要求に屈してイエスをさばきました。しかし、神はピラトの誤ったさばきを用いて、もう一つのさばきである神のさばきを行われました。神はイエスを罪のための犠牲のいけにえとして、私たちの身代わりにさばくことに

よって、私たちに救いの道を開いてくださいました。

問 39

④キリストが十字架につけられた意味 ガラテヤ 3 : 1 3

キリストが、当時ユダヤ人が行っていた石打ちの刑ではなく、十字架刑に処せられたのには、神の前に深い意味がありました。申命記 2 1 : 2 3 は、木にかけられる者は神にのろわれたものであると教えています。キリストが十字架につけられることによって、本来私たちが受けるべき神ののろいを身代わりに受けて、のろわれた者となってくださったのです。その結果、私たちは神ののろいから救われ、神の祝福にあずかりました。

第一六主日

問 40

①死の苦しみ ヘブル 2 : 9

キリストは肉体の死の苦しみとともに、私たちの罪を償うために、神のさばきを受けて、魂の死の苦しみをも経験されました。神は正しく真実なお方なので、罪を見過ごしにされず、罪を怒り罪人をさばかれます。しかし、神は人を救うために、罪のない神の御子を私たちの身代わりにさばくことによって、ご自身の義と真実を表してくださいました。

問 41

②キリストの葬り マルコ 1 5 : 4 5, 4 6

アリマタヤのヨセフがピラトにイエスのからだの下げ渡しを願った時、ピラトは百人隊長にイエスの死を確認してから、ヨセフにイエスのからだを渡しました。ヨセフは確かにイエスの遺体を墓に納めたのです。キリストの葬りによって、キリストの死が公に宣言されたのです。

問 42

③新しい死の意味 ヨハネ 5 : 2 4

キリストを信じて、私たちは死ななければなりません、キリスト者にとっては、死の意味が変わりました。キリスト者にとって死とは、自分の罪を償うことではなく、罪赦され永遠のいのちを与えられた者として、天国に行くための入口となったのです。

問 43

④キリストの死と一つとされる ローマ 6 : 6, 1 3

キリストの犠牲と死から私たちが受ける益は、私たちもキリストの死と葬りに一体とされることです。私たちはキリストとともに、古い罪人の自分に死にました。その結果、罪の支配から解放され、罪の奴隷ではなくなりました。むしろ、神に受け入れられる義の器として、自分を神にささげて生きる者とされたのです。

問 44

⑤陰府にくだったキリスト 詩 1 3 9 : 8

よみとは、死者が神のさばきを待つ中間的な場所です。キリストは死後よみにまでくだられました。信仰問答は、キリストが耐えられたよみの苦しみに焦点を当てて語ります。私たちの代わりによみの苦しみを受けられたキリストは、私たちを地上の苦しみとよみの苦しみから解放することができる救い主なのです。キリストに救われた者は、死後、よみには行かず、直接天国に行くことができます。

第一七主日

問 45

①義と認められるため ローマ 4 : 2 5

キリストは私たちの罪のために死に渡されました。その死によって、私たちの罪の贖いは完成しましたが、その結果、キリストは肉体の死だけでなく霊的にも死なれ、父なる神との関係が断たれてしまいました。しかし、キリストは復活され死に打ち勝たれて、肉体的には栄光のからだによみがえり、霊的にも父なる神との交わりを回復されました。私たちがキリストを救い主と信じる時、私たちはキリストの死と復活に結ばれます。その結果、キリストの死による罪の贖いをいただくと同時に、キリストの復活による神との正しい関係をいただきました。義認は、罪贖われて神の前に正しい者と認められることであるとともに、その結果、神との関係が正しくされることでもあります。罪によって神との関係が断絶していた私たちは、キリストの復活にあずかることによって、義と認められ、神との正しい関係に入れ

られたのです。

②新しいいのちに生きるため ローマ 6 : 4

私たちがキリストを信じた時、私たちはまずキリストの死にあずかり、古い罪人の自分に死にました。そして次に、キリストの復活にあずかり、新しいいのちに生きる者とされました。この新しいいのちは復活のいのちであり、永遠のいのちです。このキリストにある新しいいのちをいただく時に、私たちは神の子どもとして新しく造られた者とされます。そして、地上の残された時を、神のみこころを求め、神のみこころのために過ごすようになるのです。

③復活を保証するため I コリント 15 : 20

キリストの復活は、キリスト者の復活の確かな保証です。なぜなら、キリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられたからです。キリストを救い主と信じる者も一度、肉体の死を経験しなければなりません。しかし、それはキリストが栄光のからだによみがえられたように、私たちもキリストの再臨の時に、栄光のからだによみがえるためです。キリストの復活によって、私たちも終わりの時に必ず復活するという確かな希望が与えられているのです。

第一八主日

問 46

①キリストの昇天 使徒 1 : 11

よみがえられたキリストは、40日間弟子たちに現れ、ご自分が生きておられることを示されました。そして、弟子たちが見ている前で、キリストは天に上げられ見えなくなりました。キリストは、再臨の時まで、私たちのために天におられます。

問 47

②キリストの臨在 ヨハネ 14 : 16

キリストは昇天後、もう一人の助け主である聖霊を私たちにお与えくださいました。その結果、キリストは人間性においては天におられますが、神性においては聖霊によって私たちとともにおられるのです。

問 48

③キリストの二性一人格 ヨハネ 1 : 14

キリストが受肉されたときから今に至るまで、その人間性と神性は一つの人格のうちに結びついていきます。けれども、キリストは復活のからだにおいて、その人間性は天にありつつ、神性においては私たちとともにおられることができるのです。

問 49

④私たちの弁護者 I ヨハネ 2 : 1

キリストが天において、私たちの弁護者となり、父なる神の前で私たちのために絶えずとりなしていただきます。その結果、私たちは罪赦された者として、大胆に恵みの御座に出ることができるのです。

⑤私たちは肉体を天に持つ エペソ 2 : 6

かしらなるキリストが天におられることによって、キリストのからだである教会もすでに天にいることになるのです。キリストに結ばれた私たちは、天におられるキリストによって、天に届き、天につながれ、やがて、天に引き上げられます。

⑥天にあるものを求める コロサイ 3 : 1, 2

キリストが私たちにお与えくださった聖霊は、キリストがおられる天を見上げ、天にあるものを求めるようにと、私たちを励ましてくださいます。天を見上げるときに、私たちは困難があっても主の助けをいただいて、地上の生涯を全うすることができるのです。

第一九主日

問 50

①権威の御座 エペソ 1 : 20-23

神の右の座とは、権威の御座です。キリストはその御座に着かれることによって、いっさいの権威をもつ王の王とされました。キリストは、教会のかしらとしてご自身のからだなる教会を支配しておられます。教会に属する私たちは、かしらなるキリストのしもべです。また、キリストは万物の支配者とし

て、この世を治めておられます。神はキリストにより、教会を通して、この世を祝福し、みこころを行われるのです。

問 51

②天からの賜物 エペソ 4 : 10

キリストは栄光の御座に着かれることによって、天の賜物を私たちに注ぐことができるようになりました。キリストは聖霊を通して、私たちに救いの祝福をはじめ、様々な恵みと祝福を与えてくださいます。さらに、キリストはご自身の勝利の力によって、この世の戦いに生きる私たちを守り支えてくださいます。キリストが天におられるので、私たちは地上にあって、天の祝福を先取りして生きることができるのです。

問 52

③再臨と慰め ルカ 21 : 28

キリストはさばき主として再臨されます。けれども、このさばき主は私たちの知らないお方ではありません。私たちの罪を贖うために、私たちの身代わりに十字架にかかって死んでくださった主イエスなのです。ですから、主の再臨は私たちにとって喜びの救いの日です。私たちはどんな試練の時にも頭をあげて、主の再臨を待ち望むのです。

④神との和解 コロサイ 1 : 21, 22

私たちも、かつては神の敵として、神に背を向け罪の中を歩んでいました。そして、その行き着くところは、永遠の滅びでした。しかし、神は和解の福音をもって私たちを招き、キリストの贖いによって、ご自身と和解させてくださいました。この結果、私たちは神の民とされ、天国に招き入れられる者となりました。キリストの再臨とさばきのメッセージは、神の和解のメッセージでもあるのです。神の和解を受け入れなさい。

聖霊なる神について

第二〇主日

問 53

①聖霊なる神 マタイ 28 : 19, 20

聖霊は、父なる神、子なる神と同様に永遠の神であり、三位一体の神のひとりとして礼拝されるお方です。聖霊は単なる神の力ではなく、神としての人格を持っておられます。「教会は…聖霊によって励まされ」（使徒 9 : 31）「神の聖霊を悲しませてはいけません」（エペソ 4 : 30）などのみことばは、聖霊が人格を持たれる神であることを教えています。「我は聖霊を信ず」とは、聖霊なる神を信じるという信仰告白です。

②私に与えられた聖霊 ヨハネ 14 : 16, 17

イエスは、父なる神が弟子たちに聖霊をお与えになると約束されました。そして、約束どおり、ペンテコステの日に聖霊は弟子たちに下りました。そして、それ以降、神は、イエスを救い主と信じるすべての者に、聖霊を与えてくださいます。聖霊は、私たちがイエスを信じて救われる時に、私たちに与えられ、私たちのうちに住んでくださいます。「我は聖霊を信ず」とは、私にも聖霊が与えられていますという信仰告白です。

③キリストとすべての恵みにあずからせる神 I コリント 12 : 3

聖霊は、イエスが救い主であることを証し、私たちがイエスを信じることができるように助けてくださる神です。私たちは、聖霊によって、イエスを主と信じるまことの信仰に導かれます。そして、その信仰によって、私たちはキリストとそのすべての恵みにあずかる者とされました。その中心的な恵みは、キリストの十字架と復活による罪の赦しと永遠のいのちの恵みです。聖霊によって、私たちはキリストにつながったのです。

④慰めと臨在の恵み ヨハネ 14 : 16

聖霊は、私たちの助け主です。助け主（パラクレートス）は他にも、慰め主、弁護者、助言者、とりなす者、励ます者、援助者などと訳される言葉です。聖霊は、この名前に表されているすべての恵みを私たちに与えてくださる神です。しかも、私たちのうちに住み、いつまでも共にいてくださるお方です。聖霊によって、私たちはキリストにある慰めと助けをいただいて、イエスの証人として力強く歩むことができますのです。

第二主日

問 54

①キリストの教会 マタイ 16 : 18

キリストは、「あなたは、生ける神の御子キリストです。」というペテロの信仰告白の上に、ご自身の教会を建てると言われました。教会の土台は、イエスをキリストと信じる信仰です。私たちは、御霊とみことばによって、このまことの信仰を与えられ、教会の交わりに加えられました。教会とは、イエスをキリストと信じる者の群れであり、私たちも信仰によって、教会の群れの一員とされたのです。

②聖なる教会 IIテサロニケ 2 : 13

現在の教会は、人間的に見れば、聖なる教会とはほど遠い罪深い状態です。その教会がどうして聖なる教会なのでしょう。それは、キリストがご自分の民をこの世から選び、救い出し、神のものとしてくださったからです。聖なるとは、「聖別する」、「神のために他のものから分ける」という意味です。神は、キリストによって、私たちを救いの中に選び、義と認め、聖なる神に属する者としてくださったので、教会は聖なるものなのです。そして、やがて救いが完成するときに、教会の聖さも実質的に完成します。

③公同教会 エペソ 4 : 4, 5

公同（カトリック）とは、「普遍的な」、「どこでも同じ」という意味です。公同教会とは、イエスをキリストと信じる、同じまことの信仰を持っている教会のことです。その同じまことの信仰を告白している教会は、地域を超え、歴史を超えて、同じ一つ群れである公同教会に属しているのです。教会、教団、教派、プロテスタント、カトリックなどの違いを超えて、イエスをキリストと信じる教会は、一つの公同教会なのです。

④教会の生きた部分 Iコリント 12 : 27

神に選ばれ、イエスをキリストと信じて、教会の一員とされた私たちは、教会の群れの生きた部分とされました。キリストのからだなる教会とからだの器官である私は、キリストのいのちによって永遠につながっています。私たちは教会の各器官であるので、かしらなるキリストのみこころを行うために、互いに協力します。この関係は、一地域教会においても、また教会間においても言えることです。教団、教派は、一つの公同教会における各器官なのです。

問 55

①キリストとの交わり Iコリント 1 : 9

聖徒とは、真実なる神によって召され、この世から聖別され、神の民となった人のことです。すべての聖徒は、キリストを信じる信仰によって救われて、キリストとの交わりの中に入れられました。聖徒の交わりは、一人一人の聖徒がキリストとの交わりに生きていることによって成り立っています。キリストとの交わりが、聖徒の交わりの土台なのです。

②キリストのからだの交わり Iコリント 12 : 13

キリストとの交わりに入れられた聖徒は、一つの御霊によって、一つのキリストのからだの交わりに入れられました。一人一人はキリストのからだの各器官とされ、互いに結び合わされて一つのからだの交わりの中に生きています。このように、聖徒の交わりは、キリストとの交わりとキリストのからだなる教会の交わりの両方によって成り立っています。

③賜物にあずかる者の交わり ローマ 6 : 23, 12 : 6

キリストとの交わりに入れられたすべての聖徒は、キリストのあらゆる富と賜物にあずかっています。聖徒に与えられている最大の賜物は救いの賜物です。私達は、罪の赦しと永遠のいのちをいただいて聖徒とされました。また、神はすべての聖徒に神の賜物を与えておられます。一人一人の賜物は違っても、神はすべての聖徒に豊かな賜物を与えておられます。このように、聖徒の交わりとは神の賜物にあずかる者の交わりです。

④賜物を用いて仕え合う交わり Iペテロ 4 : 10

教会の交わりに入れられたすべての聖徒は、神から与えられている賜物を、他の人の益と救いのために自発的に喜んで用いる責任が与えられています。聖徒の交わりは、賜物を分かち合い、互いに仕え合うことによって築かれていきます。この賜物を未信者の救いのために用いていくことが宣教です。宣教によって聖徒の交わりが広げられていくのです。聖徒の交わりの祝福と拡大のために、神から与えられて

いる賜物を自発的に喜んで用いていきましょう。

問 56

①キリストの償い イザヤ40：2

私たちは、人のものを壊した場合、弁償して償うことができるかもしれませんが、神に対する私たちの罪は、自分の力で償うことは決してできません。そこで神は、私たちに代わって、私たちの罪を償う救い主イエス・キリストをお与えくださいました。キリストは、私たちの罪を負い、十字架で私たちの身代わりに神のさばきを受けることによって私たちの罪を償ってくださいました。私たちの罪に対する神への償いは、十字架の死によるキリストの償いを自分のためと信じることによってのみ成されるのです。

②罪を二度と思い出さない エレミヤ31：33, 34

私たちは他の人から悪いことをされると、その人を赦しても、その人の悪を思い出すことがあります。しかし、神が私たちの罪を赦されると、神は私たちの罪を二度と思い出されません。なぜなら、私たちがキリストを信じるとき、神は私たちの過去の罪も、現在の罪も、未来の罪もすべての罪を帳消しにしてくださるからです。私たちは生涯、罪と戦わなければなりません、すべての罪が完全に赦されていることを確信し、赦されている恵みを感謝して歩むことができるのです。

③キリストの義が与えられる ローマ3：23, 24

神のくださる罪の赦しは、罪が帳消しにされるだけでなく、キリストの義が私たちに与えられることでもあります。このことを義認と言います。私たちがキリストを信じるとき、私たちの罪がキリストの償いによって赦されるとともに、キリストの義が私たちに与えられ、神の前に罪人ではなく、義人として認められます。義認とはキリストの義が私たちに転嫁されることです。この転嫁されたキリストの義だけが、義なる神の要求に完全にかなうものであり、神が私たちを受け入れるための救いの根拠となります。

④さばきに会うことがない ヨハネ5：24

私たちは罪を持ったままでは、やがて神のさばきを受け、永遠の滅びに至ります。だからこそ、私たちには罪の赦しが必要なのです。キリストを信じ、罪が赦され、キリストの義を与えられた者は、もはや決してさばきに会うことはありません。そして、滅びることなく、天の御国に入れられ、永遠のいのちの祝福にあずかることができます。このことを知る時、私たちは救いの喜びをいつも持って生きることができるのです。

第二主日

問 57

①たましいは直ちに天国へ ルカ23：43

キリストの救いにあずかった私たちのたましいは、死後直ちに天国に行き、キリストのもとに迎え入れられます。このことは私たちにとって大きな慰めです。死後どの位すると天国に行くのかわからないのであれば、私たちは不安です。しかし、私たちのたましいは死後直ちに天国に行くことができます。私たちが死んで気がつく時、そこにはイエスがおられ、私たちは天国にいるのです。ですから、私たちは死を恐れることは全くありません。死は天国への門なのです。

②からだも復活して天国へ ペリピ3：21

では、私たちのからだは、死後どうなると聖書は言っているのでしょうか。私たちのからだは、死後朽ちて土に帰ります。しかし、キリストの再臨の時に、私たちのからだはよみがえり、天に引き上げられ、再び天にある私たちのたましいと結び合わされます。そして、キリストの栄光のからだと同じ姿に変えられます。その時、私たちの救いは完成します。キリストの救いとは、私たちのたましいとからだ、即ち人間全体の救いなのです。

問 58

③今すでに味わっている喜び ヨハネ17：3

私たちはまことの神とイエス・キリストを知り、イエスを救い主と信じた時に、罪が赦されて、永遠のいのちをいただきました。永遠のいのちは神と永遠に交わることでできるいのちであり、私たちは今すでに、永遠のいのちの前味を味わっています。そして、地上において天国の喜びを先取りし、救われた

喜びをもって神を賛美しながら歩んでいます。この地上での喜びはまだ始まりであり、天国において永遠の喜びは完成します。

④天国で味わう永遠の喜び 黙示 19 : 6

天国がどのような所なのかを、私たちは聖書に記されている以上に知ることはできません。天国は、まさに「目が見もせず耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかったような完全な祝福」に満ちた所ということができるでしょう。その完全な祝福を、私たちは天国において受けることができます。その時、私たちは救いのすばらしさに感動し、神を永遠にほめたたえる者とされます。そして、ハレルヤと声高らかに神を賛美して、永遠のいのちの喜びを完全に味わう者とされるのです。

第二三主日

問 59

①信仰によって与えられる助け 詩篇 46 : 1

今まで学んできた使徒信条にまとめられた聖書の福音を信じる時、私たちはどのような助けを得ることができるでしょうか。助けというと私たちは具体的な生活の助けを考えがちです。しかし、私たちにとって一番大切なことは神との関係であり、神との関係が正しくされることが私たちの救いです。そして、神との正しい関係は、私たちがキリストを信じ、神の前に義とされ、永遠のいのちをいただく時に与えられます。その時から、神が私たちの助けとなってくださるのです。

問 60

②信仰義認 ローマ 1 : 17

神の前に義とされるのは、ただキリストを信じるまことの信仰によってのみです。このことを信仰義認といいます。私たちは救われても罪を犯し、今も心が絶えず悪に傾く現実があります。その罪の現実を、自分の良心が責め立てます。しかし、どんなに良心が責め立てたとしても、私たちはキリストを信じる信仰によって、神の前に義と認められているのです。ルターは、私たちの良心が悪魔の手先になることもあると言いました。義人は信仰によって生きるのです。

③恵みのみによる救い ローマ 3 : 23, 24

神は恵みにより、キリストの完全な償いを私たちに与えてくださいます。また、神は恵みにより、キリストの完全な義をあたかも私たちが成し遂げた義とみなしてください。さらに、神は恵みにより、キリストの完全な聖を私たちにあたえてくださいます。キリストの救いは一方的な神の恵みであり、私たちの善行や功績によって与えられるものではありません。この恵みの救いを、私たちは信仰によって受け取るのです。

問 61

④信仰のみによる救い ガラテヤ 2 : 16

私たちの信仰に私たちが救う価値があるのではなく、私たちの信じるキリストの救いのみ業に私たちが救う力があります。このキリストの救いは、私たちが愛してくださる神の一方的な恵みによって与えられます。けれども、この救いを受けるためには、キリストを信じなければなりません。私たちはキリストを信じる信仰によってのみ義とされるのです。信仰が神の救いを受け取る唯一の方法なのです。

第二四主日

問 62

①善い行い ガラテヤ 3 : 10, 13

宗教改革を受けて、ローマ・カトリック教会はトリエント会議を開いて、救いの教理を確認しました。そして、その会議で、救われるためには信仰とともに善い行いも必要であることを確認し、信仰のみというプロテスタント教会の教えを排斥したのでした。それを受けて作成されたハイデルベルク信仰問答は、救いの条件に善い行いは必要なく、人はイエス・キリストを信じる信仰によってのみ救われることを、明確に教えます。私たちのどんな善行も神の前では不完全であり、神のさばきに耐えうる義とはなりません。救いは神の一方的な恵みであり、私たちはその恵みの救いを、信仰によってのみ受け取ることができるのです。

問

②神の報い ルカ 17 : 10

神は、私たちの善い行いに応じて報いてくださると、聖書は教えています。それなのに、私たちの善い行いには何の価値もないのでしょうか。その問いに対して、私たちが確認すべきことは、神は確かに私たちに報いてくださいますが、この神の報いは私たちの行いに対する当然の報酬ではないということです。報いもまた、神の一方的な恵みとして与えられるのです。私たちは、主のしもべとして、ただ救いの感謝をもって、主のために仕えるのです。そして、私たちの善い行いは、当然すべきことをしたに過ぎないのであって、神からの報いを要求することなどできません。しかし、神は恵みによって、私たちの行いに対して報いてくださるのです。私たちは、救いも報いも神の恵みとして受けるのです。

問 64

③感謝の実 ヨハネ 15 : 5

善い行いは救いの条件ではなく、報いも神の恵みであるならば、キリスト者は善い行いをしなくなるのではないかと問われます。しかし、善い行いとは救いの条件ではなく、救いの実なのです。人はキリストの十字架の贖いによって救われるならば、神の子どもとして新生し、神に喜ばれる善い行いをしたいと心から願う者とされます。そして、キリストの力をいただいて、善い行いをする者に変えられるのです。ですから、救われた人は、感謝の実としての善い行いの実を結ばないことなどありえないのです。キリストに接ぎ木された私たちは、キリストのわざを行う者となったのです。

聖なる礼典について

第二五主日

問 65

①聖霊が与える信仰 I コリント 12 : 3

「イエスは主です」と信じる信仰は、私たちの中から生み出されるものではなく、私たちの外から、即ち、聖霊によって与えられるものなのです。聖霊は、私たちが救いに至る信仰を堅く保つために、二つの恵みの手段を用いられます。一つは説教であり、説教によって語られる福音によって、聖霊は私たちの内に信仰を起こしてくださいます。もう一つは聖礼典であり、聖霊は聖礼典によって、私たちの内に与えられている信仰を堅く保ってくださるのです。

問 66

②目に見えるしるし マタイ 26 : 26 - 28

説教は耳で聞くしるしであり、目には見えません。それに対して、聖礼典は見えるしるしであり、説教によって聞いた福音の約束をよりよく理解するために与えられました。私たちは、洗礼によって、自分がキリストを信じて救われたこと、そして、キリストとともに古い自分に死に、復活のいのちにあずかって神の子どもとされたことを確認することができます。また、聖餐を通して、十字架で成就されたキリストの唯一の犠牲のゆえに、罪赦され、永遠のいのちをいただいていることを確かめることができます。

問 67

③キリストの唯一の犠牲 ローマ 6 : 3, 4, I コリント 11 : 26

みことばと聖礼典は共に、キリストの十字架の犠牲こそ、私たちの救いの唯一の土台であることを教えています。説教は十字架の恵みを語ることであり、十字架のことばなのです。また、聖礼典も説教と同様に、キリストの十字架の犠牲こそ、私たちの救いの唯一の土台であることを教えています。私たちは説教と聖礼典を通して、福音を聞き、信じ、堅く保っていくことができるのです。

問 68

④洗礼と聖餐 マタイ 28 : 19, 20

ローマ・カトリック教会では、聖礼典(秘跡)は七つあり、洗礼、堅信、聖体、ゆるし、病者の塗油、叙階、婚姻としています。それに対して、プロテスタント教会は、聖書においてキリストが制定された洗礼と聖餐の二つだけを聖礼典としました。それは、聖書のみという信仰に立ったからです。洗礼と聖餐は、救いの唯一の土台はキリストの十字架の犠牲にあることを私たちに教える聖礼典です。

聖なる洗礼について

第二六主日

問 69

①キリストの唯一の犠牲による救い 使徒 2 : 38

私たちは、キリストの約束を信じることによって、バプテスマを受ける時に、キリストの唯一の犠牲に

よって救われたことを確信することができます。キリストは、ご自身を信じた者にはバプテスマを授けるようにと命じられました。私たちは、キリストの血と聖霊によって罪が洗いきよめられたことを、目で確かめることはできません。そこで、キリストは、外的な水の洗いという目に見えるしるしによって、私たちの罪がキリストの血と御霊によって、確かに洗いきよめられたことを教えてください。

問 7

②罪の赦し エペソ 1 : 7

キリストの血と霊によって洗われるとは、第 1 に、キリストの血による贖いを信じる時に、神の恵みにより、聖霊の働きによって、実際にキリストの血によって私たちの罪が赦されきよめられることを教えてください。バプテスマを受ける者は、キリストの死にあずかることによって、古い罪の自分が死に、すべての罪が赦されたことを確認します。

③聖霊による新生 II コリント 5 : 17

キリストの血と霊によって洗われるとは、第 2 に、キリストの復活にもあずかり、永遠のいのちをいただいて、聖霊によって神の子どもとして新生することを教えてください。新生した神の子どもは、キリストの一部として聖別され、キリストのからだなる教会の一員とされます。キリスト者は、教会の交わりの中で、神を礼拝し、みことばと聖餐によって養われ、聖化の恵みを受けて、ますます罪に死に、キリストに生きる者とされるのです。

問 71

④キリストの約束 マタイ 28 : 19、マルコ 16 : 16、使徒 22 : 16

キリストは大宣教命令において、キリストを信じて救われた者にバプテスマを授けるようにと命じられました。使徒たちは、キリストの命令に従い、キリストを信じた者にバプテスマを授けました。ですから、救いは信仰によるのだから、象徴的なしるしであるバプテスマを必要としないと言ってはいけません。バプテスマは、私たちにキリストの救いを確信させ、キリストのからだなる教会の一員として歩み始めるための恵みの手段なのです。

第二七主日

問 72

①罪の洗いきよめ I ペテロ 3 : 21

バプテスマによって、私たちの罪が洗いきよめられ、赦されるわけではありません。イエス・キリストの血と聖霊のみが、私たちをすべての罪からきよめてくださるのです。バプテスマにおいて大切なのは、キリストの血による贖いを自分のためと信じる信仰です。その自覚的な信仰をもってバプテスマを受ける時、私たちはキリストの血潮によって罪を赦され、聖霊によって新生したことを確信することができます。バプテスマは、キリストの血と聖霊による罪の洗いきよめを象徴する見えるしるしなのです。

問 73

②聖霊による新生と更新との洗い テトス 3 : 5

神は、外的な水の洗いであるバプテスマによって、ちょうど水が体の汚れを落とすように、キリストの血と霊が私たちの罪を完全に洗いきよめることを教えておられるのです。私たちは、父と子と聖霊の三位一体の神の御名によってバプテスマを受けます。三位一体の神が、キリストを信じてバプテスマを受ける者に、キリストの血による罪の赦しと聖霊による新生を保障してくださるのです。

問 74

③幼児洗礼と信者の洗礼 使徒 2 : 38, 39

バプテスマの方法には、水に全身を沈める浸礼、水をつけた指を頭に置く滴礼、水を頭に注ぐ注礼があります。また、バプテスマの形式には幼児に授ける幼児洗礼と、自覚的な信仰を告白した信者に授ける信者の洗礼があります。

問 74 は、幼児洗礼を支持する立場で書かれています。幼児洗礼を支持する教会は、ルター派、改革長老派、聖公会などです。その理由として、キリスト者の夫婦に与えられた子供は未信者の子供とは違い、生まれた時から契約の民に属しているとの信仰があります。そして、旧約時代には割礼が契約の民のしるしとなったように、新約時代には、洗礼が契約の民のしるしであるととらえて、両親の信仰に基づいて、幼児に洗礼を授けます。

一方、信者の洗礼を支持する教会は、バプテスト派や多くの福音派です。その理由は、罪を悔い改めてキリストを信じた者がバプテスマを受けるという聖書の教えです。自覚的な信仰をもってバプテスマを

受ける者が、キリストの血による罪の赦しと聖霊による新生を確信することができるのです。

イエス・キリストの聖晩餐について

第二八主日

問 75

①主を記念するパンと杯 マタイ 26 : 26 - 28

聖餐も洗礼と同様に、キリストが命じられた聖礼典です。私たちはキリストを記念するパンと杯をいただく時、私のためにキリストのからだを十字架上でささげられ、引き裂かれたこと、また、キリストの血が流されたことを思い起こし、確信することができます。

②たましいの養い ヨハネ 6 : 53 - 55

私たちは主のパンを食べ、杯を飲む時に、十字架でのキリストの唯一の犠牲によって、確かに罪が赦され、永遠のいのちが与えられたことを思い起こし、確信することができます。私たちは聖餐を通して、キリストの血による贖いが自分のためであったという救いの原点を確かめながら、たましいの養いを受けて信仰生活を歩むことができるのです。

問 76

③信仰の心をもって受け入れる ヨハネ 6 : 56 - 58

キリストのからだを食べ、流された血を飲むとは、私たちが主のパンと杯をいただく時に、信仰によって、キリストの苦難と死が私のためであったことを受け入れることです。信仰がなければ、聖餐はただのパンと杯を食するだけですが、信仰によって聖餐にあずかる時に、罪の赦しと永遠のいのちをいただいていることを確信することができるのです。

④キリストと一体とされる エペソ 5 : 29, 30

私たちが信仰をもって聖餐にあずかる時、聖霊によって、キリストといよいよ一つとされていきます。アダムがエバを「私の肉からの肉、私の骨からの骨」と呼び、一体とされたように、私たちもキリストの花嫁としてキリストの肉の肉、骨の骨となり、聖霊によって、天におられるキリストと一体となるのです。

問 77

①キリストの約束 I コリント 11 : 23 - 26

私たちは、キリストが制定された聖餐にあずかることにより、キリストのからだと血にあずかることができます。聖餐は、主の死が、私たちの罪を贖うための犠牲の死であったことを告知させる見えるしるしです。ですから、私たちが聖餐にあずかる時、毎回、キリストが私たちを救うために身代わりに死んでくださったことを確信するのです。

第二九主日

問 78

②パンとぶどう酒 I コリント 10 : 16, 17

聖餐式において、パンをキリストのからだ、ぶどう酒（ぶどう汁）をキリストの血と呼びますが、パンとぶどう酒が、実際にキリストのからだと血に変わるものではありません。聖餐式において食べるパンは普通のパンであり、飲むぶどう酒は普通のぶどう酒です。けれども、聖餐式において私たちは、パンをもってキリストの裂かれたからだを覚え、ぶどう酒をもってキリストの流された血を覚えるのです。

問 79

③まことの食物、まことの飲み物 ヨハネ 6 : 55

キリストは、パンとぶどう酒が、私たちのからだを養う食べ物と飲み物であるように、キリストのからだと血が、私たちに永遠のいのちを与えるまことの食べ物と飲み物であることを教えられました。私たちが聖餐にあずかる時、聖霊は、キリストの償いが私たちの償いとなり、キリストの従順が私たちの従順となっていることを確信させていただきます。

第三〇主日

問 80

①キリストの唯一の犠牲 ヘブル 9 : 25, 26

カトリック教会は、聖餐（聖体拝領）において司祭が聖別の祈りをすると、パンはキリストの体に、ぶどう酒はキリストの血に変わると理解します。（化体説）さらに、聖餐のたびに主の犠牲が繰り返されると

理解します。これに対してプロテスタント教会は、パンとぶどう酒をキリストご自身とすることは偶像礼拝であること、また、キリストの犠牲は、ただ一度、十字架上でささげられたのであり、唯一のキリストの犠牲によって、罪の贖いが完成したことを聖書から確認しました。その一方で、プロテスタント教会内でも、聖餐におけるキリストの臨在の理解には微妙な違いがあります。ルターは、パンとぶどう酒にキリストが臨在されると説きました(共在説)。ツウィングリは、パンとぶどう酒はキリストの体と血の象徴であると説きました(象徴説)。カルバンは、パンとぶどう酒はキリストの体と血の象徴であるが、聖霊によって臨在されるキリストと私たちは一体とされると説きました。(聖霊による現在説)大切なことは、聖餐において、十字架上でただ一度ご自身をささげられたキリストの完全な贖いを信じることです。

問 81

②聖餐にあずかる資格 I コリント 11 : 27, 28

聖餐にあずかる資格が三つあることが述べられています。第1は、自分が神の前にふさわしくない罪人であることを知ること。第2は、キリストの苦難と死によって自分の罪が赦されていることを信じること。第3は、きよめられることを切望することです。聖餐にあずかる資格は自分の聖さではなく、罪を悔い改めて、主の贖いを信じる信仰です。

問 82

③聖餐にあずかれない者 I コリント 11 : 29 - 31

聖餐にあずかる資格のない者とは、自分が罪人であることを認めず、キリストの十字架の赦しを信じず、キリストのきよめにあずかることを求めない者です。そのような人が聖餐にあずかるならば、神の契約を侮辱し、神の怒りを全会衆に招くことになります。

鍵の務めについて

第三主日

問 83

①鍵の務め マタイ 16 : 19

イエスはペテロに対して、「わたしは、あなたに天の御国のかぎを上げます。」と言われました。ペテロは教会を代表して、イエスから鍵の務めを受け取りました。このように、教会は主イエスから天の御国の鍵を与えられているのです。そして、この鍵の務めを果たすことによって、人々に対して天国を開き、また閉じる尊い働きを行うのです。具体的には、聖なる福音の説教とキリスト教的戒規をもって、鍵の務めを果たします。

問 84

②聖なる福音の説教 ヨハネ 3 : 36

神は教会に、全世界に出て行って福音を宣べ伝える使命と責任を与えられました。そして、私たちが人々に福音を伝える時、それを聞いた人がまことの信仰をもって受け入れ、イエスを主と信じるならば、その人の罪はキリストの十字架の贖いによって赦され、天の御国に入ることができます。その一方で、福音を聞いても信じない人は、罪と神のさばきのもとにとどまり、天の御国はその人に対して開かれません。このように、神は、教会が宣べ伝える福音に対する人々の応答によって、天国を開きまた閉じられるのです。

問 85

③キリスト教的戒規 マタイ 18 : 15 - 18

神は教会に対して、戒規によって不信仰と背信を示す人に対して、聖餐の交わりを停止する鍵の務めを与えられました。戒規とは英語では訓練を意味する「ディシプリン」であり、それは弟子を意味する「ディサイプル」とつながる言葉です。ですから、戒規は懲罰ではなく、主の弟子としてふさわしく整えるための訓練の意味があります。特に、戒規は、罪の中にある人が悔い改めて、主と教会の交わりに立ち返ることを促すための規定です。また、教会は戒規によって、罪をないがしろにせず、自らを罪から守り、教会の聖さを保つことができます。教会が戒規を行う場合は、厳粛にまた兄弟愛をもって行わなければなりません。

第三部 感謝について

全生活にわたる感謝

第三主日

問 86

①新生と聖化 IIコリント5：17

第3部は「感謝について」の教えです。そして、その中で十戒と主の祈りを学びます。その前段階として問86～91があります。私たちは良い行いによってではなく、神の恵みにより、キリストの贖いを信じる信仰によって救われました。それなのに、なぜ私たちは良い行いをしなければならないのでしょうか。第1の理由は、私たちはキリストを信じた時に、神の子どもとして新生し、キリストに似るものに変えられたからです。新生した者は、神に喜ばれる良い行いをしたいと心から願う者とされました。そして、聖霊によって、聖化の恵みを受け、良い行いの実を結ぶ者に変えられたのです。

②神への感謝 Iコリント6：20

私たちが良い行いをする第2の理由は、救いに対する神への感謝です。キリストはご自身のいのちをささげて私たちの罪を贖い、救いを完成してくださいました。私たちは十字架で死に、よみがえられたキリストを信じることによって、罪赦され、永遠のいのちをいただいて救われました。このすばらしい救いの恵みを覚えるときに、私たちは神に感謝し、全生涯を通して、神の栄光を現す者として生きることを願わずにはいられません。良い行いは、私たちの神への感謝の実として結ばれるのです。

③証しの生活 マタイ5：16

私たちが良い行いをする第3の理由は伝道です。私たちが救われたのは、私たちを通して、まだ救われていない人々にキリストを伝えるためです。神はすべてのキリスト者に伝道の使命を与えられました。伝道は神への感謝の生活の中で行われます。私たちが救いを感謝し、生活を通して神を賛美し、神に喜ばれる良い行いの実を結ぶ時、隣人への良き証しとなります。伝道は、みことばと生活の両方の証しによってなされます。

問87

④救いと良い行い Iコリント6：9，10

キリストを信じて救われ、神の子どもとして新生した者が、以前と変わらずに、古い罪の生活をし続けることはありません。問64の答えにも「まことの信仰によってキリストに接ぎ木された人々が、感謝の実を結ばないことなど、ありえないからです。」とあるとおりです。罪を悔い改めて、キリストを信じることなしに、救いの祝福を神から受けることはしないのです。

第三主日

問88

①まことの悔い改めと回心 ローマ6：3，4

私たちが神の祝福を受け、神に感謝して生きるためには、悔い改めて神に立ち返らなければなりません。人はまことの悔い改めを行って回心する時、二つのことを経験します。一つは古い人の死滅であり、もう一つは新しい人の復活です。罪を悔い改め、キリストの救いを信じる時、私たちはキリストとともに古い自分に死に、キリストの復活のいのちにあずかって、キリストにある新しい人に変えられるのです。

問89

②古い人の死滅 ローマ6：11

救われる前の私たちは、罪を罪として認めず、罪を好んで近づき、罪を行うものでした。それが古い人の性質です。しかし、まことの悔い改めを行って救われた時、この古い人が死んだのです。そして、心から罪を嘆き、罪を憎んで避けるものとなりました。その一方で、私たちの内には、救われてもなお古い人が存在していることも事実です。ここにキリスト者の罪との戦いがあり、罪に負けてしまうこともあるのです。ですから、私たちは日々悔い改めて古い人に死に、神に立ち返って赦しをいただき、聖化の恵みにあずかり続けることが必要なのです。

問90

③新しい人の復活 ガラテヤ2：20

まことの悔い改めは、私たちが古い人に死ぬだけでなく、キリストの復活にあずかって新しい人に生きる者としてします。新しい人は、自分を救ってくださった神を心から喜び、神に感謝します。また、神のみこころに従って、神に喜ばれる良い行いをしたいと心から願います。キリスト者にとって、良い行いは義務ではなく、神への感謝の実です。心を神に向け、心から神に感謝する時に、私たちは良い行いに向かうことができるのです。

問91

④ 良い行い エペソ 2 : 10

神に喜ばれる良い行いとは、人間の思いや価値観に基づくものではありません。良い行いの起源は、罪を悔い改めてキリストを信じるまことの信仰です。そこから、神への感謝が生まれてきます。また、良い行いの基準は神の律法です。律法は、私たちに罪を示しキリストに導く養育係としての働きをするとともに、救われた者に対しては、神のみこころを示し良い行いへと向かわせる道しるべの働きをします。また、良い行いの目標は神の栄光を現すことです。私たちは新しい人として、神への感謝にあふれ、神に喜ばれる良いわざに励む者となりましょう。

十戒について

第三四主日

問 92

① 十戒 出エジプト 20 : 2 - 17

2 節の「わたしはあなたをエジプトの国、奴隷の家から連れ出した、あなたの神、主である。」は通常、十戒の序文として考えられています。そして、この序文は重要な意味を持っています。即ち、イスラエルの民は、奴隷からの解放という主の救いを経験した後に、救われた民の道しるべとして、主から律法を与えられたのです。このことは、キリスト者にとっても当てはまります。私たちは、罪の奴隷からキリストの贖いによって救われた時に、主に対する感謝の生活へと導かれました。そして、感謝の生活の実として良い行いの実を結ぶ者とされました。十戒は、良い行いの基準を示す主の民の道しるべとして、主から私たちに与えられているのです。

問 93

② 2 つに分けられる戒め マタイ 22 : 36 - 40

十戒は前半の 4 つの戒めと後半の 6 つの戒めの 2 つに分けることができます。第 1 戒から第 4 戒までは、神との関係が教えられ、第 5 戒から第 10 戒までは、人との関係が教えられています。神は、私たちが神との正しい関係と人との正しい関係の両方に生きることを願っておられます。イエスは、律法全体が「主を愛せよ」と「隣人を愛せよ」の 2 つの愛の戒めに要約できると教えられました。主の戒めは、主の十字架の贖いによって、私たちの人生に成就していくのです。

問 94

① 第 1 戒「わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。」出エジプト 20 : 3

第 1 戒は、唯一まことの神だけを信じるようにという戒めです。そのためには、人間が造った他の神々への信仰を避けなければなりません。あらゆる偶像崇拜、魔術、迷信的な教え、諸聖人や他の被造物への呼びかけなどは、私たちをまことの神から引き離します。その結果、私たちは神の救いと祝福を受けることができなくなるのです。神の救いと祝福にあずかるためには、唯一まことの神のみを信じる信仰に立たなければなりません。また、神の救いにあずかった者は、まことの神のみを信じる者とされたのです。

② 主にのみ信頼する 詩篇 115 : 9 - 11

唯一まことの神のみを信じる信仰に立つためには、まず聖書によってまことの神を正しく知る必要があります。そして、次に実生活において神に信頼し、神に期待し、神を愛し敬って生きることが必要です。そのためには、私たちは神の前に絶えず謙遜に、また忍耐深くなければなりません。私たちが祈る時、忍耐の限りを尽くし、神にすべてをゆだね、神のくださる最善を信じ、期待して待ち望むなら、神は私たちに祝福してくださり、私たちは偶像礼拝からも守られます。

③ 神への従順 マタイ 10 : 37

唯一まことの神のみを信じる信仰生活には、信仰の戦いがやってきます。キリスト者が、異教世界の中で、唯一の神のみを信じ、他の神々には仕えないという信仰を貫こうとするならば、周りの人々から様々な圧力や反対を受けることになります。その時、神の救いのすばらしさを知っているならば、私たちは神に忠実に、困難には忍耐をもって、信仰の戦いを戦い、主の助けによって勝利していくことができます。

問 95

④ 偶像礼拝 ピリピ 3 : 19

第 1 戒は、偶像礼拝をしないという第 2 戒と深く関わっています。偶像とは異教の神々のことだけでなく、私たちがまことの神以外のものに頼るならば、それがその人にとっての偶像なのです。もし、お

金、物、欲望、地位、名誉、人間、科学などに人が頼るならば、それらはその人にとっての偶像であり、その人は偶像礼拝をしていることになるのです。私たちのたましいの拠り所は、私たちを救ってくださったまことの神だけであることを、いつも心に留め、この神だけに信頼していきましょう。

第三五主日

問 96

①第2戒 「偶像を造ってはならない。」 出エジプト20：4－6

ハイデルベルク信仰問答では、第1戒は礼拝の対象を教え、第2戒は礼拝の方法を教えていると考えます。そして、第1戒において、唯一まことの神のみが礼拝の対象であり、それ以外の偶像の神々を拝むことをすでに禁じているので、第2戒はまことの神を形に表して礼拝することを禁じている戒めだと考えます。霊なる神を形に表すことは不可能であり、まことの神を形にして拝むことは偶像礼拝にほかなりません。私たちは、神がみことばにおいて命じられた以外の仕方では礼拝してはならないのです。

問 97

②神を形に表すことを禁じる 出エジプト32：7、8

まことの霊なる神を、いかなる形に表すこともできません。それは不可能なことです。まことの神を形に表すことは、神に対する高慢な行為であり、偶像礼拝の罪を犯すことにほかなりません。一方、もともと形を持っている被造物については、それを礼拝の対象としない限りは、模造してもよいのです。ここに、教会における芸術作品としての絵画や彫刻の意義を見出すことができます。けれども、そのような画像が礼拝の対象とされるなら、それは偶像となってしまいます。神はそのような偶像礼拝を禁じておられるのです。

問 98

③みことばの生きた説教 ヨハネ4：23、24

カトリック教会では、画像を「信徒のための書物」として認め、教会において画像を用いることを正当化してきました。確かに、画像は視覚教材としての教育的効果があります。しかし、結果的に、人々は画像を拝み、教会の中で偶像礼拝が行われるようになりました。プロテスタント教会は、第2戒が教えるとおりに、画像を用いて礼拝することを禁じました。そして、神が教えられたとおりに、みことばの生きた説教によって礼拝することを重んじました。そのために、聖書翻訳が行われ、読み書き教育が行われ、信徒が自国語で聖書を読み、聖書の説教を聞くことによって神を礼拝できるようにしました。聖霊は、みことばの説教によって私たちにまことの神を示し、私たちが霊とまことによって神を礼拝できるようにして下さるのです。

第三六主日

問 99

①第3戒「主の御名をみだりに唱えてはならない。」 出エジプト20：7

第3戒は、主の御名の間違った用い方を禁じています。主の御名をみだりに唱えるとは、呪い、偽りの誓い、不必要な誓約によって、主の御名を冒瀆したり乱用することです。主の御名を正しく告白し、信仰によって呼びかけ、賛美する目的ではなく、自分の都合のために主の御名を利用してはいけません。私たちは御名の栄光をひたすら求めなければなりません。

問 100

②御名を冒瀆する罪 レビ24：16

第3戒の後半部分は、「主は、御名をみだりに唱える者を、罰せずにはおかない。」と教えています。モーセが、御名を冒瀆した青年に対する罰を神に伺ったところ、神は石打ちの刑を命じられました。神はご自身の御名を汚す罪を激しく怒られます。私たちは自ら御名を冒瀆してはならないし、御名が冒瀆されていることに気づけば、黙認や傍観をせずに、できる限り阻止しなければ、同じ罪を犯すことになるのです。

第三七主日

問 101

③敬虔な誓い 申命記6：13

神への恐れと敬虔を持って、主の御名によって誓うことは良いことです。そのような誓いは、みことばに基づいています。私たちが、信仰をもって御名による誓約をすることは、神の御前に必ず約束を守るという誠実な決心を表明することになります。反対に、このような信仰によらず、不敬虔な軽い思いで御名によって

誓うならば、御名を汚す罪となります。

問 102

④被造物をさして誓わない マタイ 5 : 34-37

被造物に過ぎないものをさして誓うことは、まことの神を軽んじることであり、御名を汚すことになります。イエスが「決して誓ってはならない」と言われた誓いとは、御名によって誓わなければ守る必要はないとして、天や地やエルサレムや頭をさして誓うことを教えた律法学者たちの誓いです。このような誓いは偽善であり、御名を冒瀆する罪となります。神への誓いは、それを破れば神の罰を受けることも覚悟して行うほどの真実な証しです。ですから、神への誓いは特別で重要なことのためにのみ行うものであり、決して乱用してはなりません。通常は、「はい」「いいえ」で事足りるのです。

第三八主日

問 103

①第4戒「安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。」出エジプト 20 : 8-11、申命 5 : 15

第4戒は、私たちが6日間働いて、7日目を安息日として休み、その日を聖なる日とするようにと教えています。聖なる日とは、神のために安息日を聖別し、肉体的に休息するとともに、神の民が集まって神を礼拝する特別な日とすることです。私たちは、7日ごとに休み、神の創造の御業と救いの御業を覚えて、創造主であり救い主である神を喜びほめたたえて、礼拝するのです。

②土曜日の安息日から日曜日の主の日へ 使徒 20 : 7

十戒が教える安息日は7日目の土曜日でした。今でも、ユダヤ教は土曜日に安息日礼拝を守っています。けれども、新約時代に入り、教会は日曜日に礼拝を行うようになりました。それは、週の初めの日の日曜日にキリストがよみがえられたからです。教会は、私たちを救うために十字架で死に、3日目によみがえり、今も生きておられる救い主を礼拝する日として、日曜日を選びました。旧約の出エジプトの救いの御業は、新約のキリストの救いの御業によって成就しました。そのキリストの救いの御業を覚えるために、教会は日曜日を主の日として、その日に礼拝をするようになりました。

③主日礼拝 ヘブル 10 : 23-25

私たちは日曜日を主の日として教会に集まり、神を礼拝します。礼拝では、神の言葉が読まれ、みことばを解き明かす説教によって、まことの神と神のみこころを知り、神を礼拝します。また、聖礼典にあずかり、キリストの救いの御業に感謝します。また、公に神の民とともに主をほめたたえ、信仰を告白します。そして、献金をもって神に献身し、神と隣人に仕えるためにこの世に遣わされます。

④生涯のすべての日 ヘブル 4 : 9-11

主の日の礼拝によって、私たちは神と交わり、聖霊の力をいただいて、一週間の務めに遣わされます。主日礼拝は一週間の生活の祝福の源です。そして、週ごとに神を礼拝する生活を続けることによって、私たちの全生涯が主の祝福にあずかり、聖霊の力によって変えられ成長し、この世にあって永遠の安息を先取りして生きる者となります。そして、やがて天に召される時に、永遠の安息は完成します。その時まで、私たちは天における永遠の安息を待ち望みながら、地上において主の日の礼拝を守り、信仰を強められて、この世の使命に励むのです。

第三九主日

問 104

①第5戒「あなたの父と母を敬え。」出エジプト 20 : 12

第5戒から第10戒までは十戒の後半部分となり、人との関係を教えています。そして、人との関係の最初に、親子関係が教えられています。子供にとって親は神の代理人です。神は親に子供を与えるとともに、子供を育てるための権威と責任も与えられました。ですから、親はこのことを自覚し、親自身が神を敬い、神から与えられた権威をもって子供を愛して養い、神への信仰を教える責任があるのです。また、子供も、神が立てられた自分の親を敬い愛して、主にあって両親に従って生きることが大切なのです。

②彼らの欠け ルカ 2 : 51

完璧な親は一人もいません。親には欠点もあり、多くの弱さや足りなさがあります。しかし、第5戒は、子供が親の欠点ゆえに尊敬できないと思う場合でも、なお親の欠けを忍耐し、謙遜をもって親を敬うべきことを教えています。子供の忍耐と謙遜は、神が自分に両親を与え、神の代理者として立てておられ

るという子供自身の神への信仰によって与えられます。一方、親は自らが欠けだらけの者であることを認め、いっそう神に助けを求めながら、自分自身が主にあって成長し、子供の尊敬を受ける者となるように努めなければなりません。

③神からの祝福 エペソ 6 : 1 - 3

両親を敬う者には、長生きするとの神からの祝福の約束が伴っています。良い親子関係は家族の祝福となり、その家庭には愛、信仰、忍耐、尊敬、謙遜などの良きものが満ちてきます。その結果、その家庭は霊肉ともに健康的な生活を送ることができます。また、両親を敬う姿を次の世代に見せていくなれば、その家庭は世代を超えて祝福されていきます。長生きは一般的な約束ですが、両親を敬う者は年数に関わらず、神に祝福された良き人生を歩むことができます。

④上に立てられた人々 ローマ 13 : 1

信仰問答は、第5戒の教えを通して、私たちが社会において上に立てられた人々を敬うことをも、神は望んでおられると教えています。なぜなら、神は子供を育てる権威を親に与えられたように、神は国や社会を治める権威を上にと立てられた人々に与えられたからです。すべての権威は神から与えられていることを覚えるとき、私たちは国や社会の権威を重んじ、主にあって従い、上に立てられた人々が神のみこころを行うように彼らのために祈ることが求められます。

第四〇主日

問 105

①第6戒 「殺してはならない。」 出エジプト 20 : 13、創世 1 : 27

神は人をご自身のかたちに創造されました。ここに、人間のいのちの尊厳があります。そして、それ故に、だれも人のいのちを自分勝手に奪うことは赦されないのです。第6戒が禁じていることは殺人です。人を自分でまたは他人を通して殺すこと、また自分で自分を殺すことも禁じています。一方で、第6戒は、殺人罪に対する法的な処罰としての死刑(創 9:6)、正当防衛によって突発的に人を殺すこと(出エ 22:2)、旧約聖書における神の御旨によるイスラエルの戦いにおける殺人などを禁じてはいません。第6戒は、いのちの造り主なる神を恐れ、神の御旨を行う信仰が土台となっています。

②思い、言葉、態度、行為 マタイ 5 : 21, 22

イエスは、第6戒は、実際の殺人行為だけでなく、心の中で人に対して腹を立てたり、言葉で人を侮辱することも、神の前では殺人と同じ罪であると教えられました。神は、私たちが思いと言葉と態度と行為において、他人をそしったり、憎んだり、侮辱したり、ましてや殺したりしないことを望んでおられます。そして、私たちが他人に対するあらゆる復讐心を捨て去ることを望んでおられます。

問 106

③殺人の根 I ヨハネ 3 : 15

神は殺人だけでなく、殺人に至る前に人が持つ、ねたみ、憎しみ、怒り、復讐心という殺人の根を憎んでおられます。ですから、実際に殺人を犯さなくても、心の中で兄弟を憎むという殺人の根を持つならば、神の前では一種の隠れた殺人を犯したことになります。私たちは、自らの心に持つ殺人の根を、神の助けによって取り除かなければなりません。

問 107

④隣人愛 マタイ 5 : 44, 45

第6戒は、殺人の根を持たず、殺さなければそれで十分という消極的な教えではなく、積極的に隣人を愛することを教えています。私たちが、キリストの救いにあずかる時、神が与えられた人間のいのちの尊厳を信仰によって受け止め、神が愛される隣人を私たちも愛する生き方へと導かれます。それは敵をも愛するという生き方です。そのような愛は私たちの内にはありませんが、聖霊の実として、神が私たちに与えてくださいます。

第四一主日

問 108

①第7戒 「姦淫してはならない。」 出エジプト 20 : 14、創世 2 : 24

第5戒が家庭での親子関係を教えるのに対し、第7戒は夫婦関係を教える戒めです。結婚は神が定められた神聖な制度です。ですから、神は結婚において夫婦が一体とされることを願われます。結婚における夫婦の性的関係は神の賜物であり、神の祝福が伴いますが、結婚生活以外の性的関係は神の前で罪となります。私たちは、神が定めた神聖な結婚生活を重んじるなら、家庭も社会も神の祝福を受けること

ができます。

②既婚者も未婚者も ヘブル 13 : 4

第7戒は既婚者の姦淫を戒めているだけでなく、未婚者の婚外交渉も不品行の罪として戒めています。すべての人は、神が定めた神聖な結婚制度を重んじなければなりません。自分の考えや欲望に従って、結婚以外の関係において性的関係を持つならば、神はその人を罪とされます。第7戒は、すべての人が正しい性の関係を尊重すべきことを命じているのです。

問 109

③聖霊の宮 I コリント 6 : 18 - 20

私たちはキリストの救いを受けた時に、体も魂も神のものとされました。そして、聖霊が私たちの内に宿ってくださったので、私たちの体も魂も聖霊の宮とされました。ですから、私たちが体と魂を、清く聖なるものとして保つことを神は望んでおられます。不品行は私たちの体に対する罪であるばかりか、魂をも汚す罪です。聖霊の宮とされた私たちは、性的関係においても神の栄光を現す者となるべきなのです。

④行いだけでなく マタイ 5 : 27、28

イエスは、「だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。」と言われました。第7戒は姦淫の行いだけを禁じているのではなく、態度や言葉、心の中の思いや欲望、また人を誘惑することまでを戒めているのです。心の中の情欲は、姦淫の根であり、神の前では一種の隠れた姦淫なのです。そのことを覚える時、私たちはだれも神の前に罪なしということはできません。ですから、いつも罪を自覚したら悔い改め、聖霊の助けをいただき誘惑から守られて、神の栄光を現す生活をするのが求められているのです。

第四二主日

問 110

①第8戒 「盗んではならない。」 出エジプト 20 : 15

第8戒は、人の財産や所有物を盗むことを禁じています。人の財産や所有物を盗み略奪することは、この世の法律でさえ禁じていることです。今日では、人の所有物の定義はより専門的になり、著作権や特許権などの知的財産も含まれます。私たちはこれらのこともよく注意して、他人のものを盗むことがないように気を付けなければなりません。

②不正や偽装による利益 申命 25 : 13 - 16

第8戒は、あらゆる不正や偽装によって、人をだまして自分の利益を増やすことも禁じています。たとえば人が気づかない不正も、隠れたところを見ておられる神は見えておられ、神はその罪を罰せられます。商売によって適正な利益を得ることは良いことですが、不正や偽装を行い、相手に損をさせて自分の利益を得ることは盗みの罪となります。商売において大切なのは信用ですが、これは神と人の前に正直に生きることによって得られるものです。

③不必要な浪費 I テモテ 6 : 6 - 8

さらに信仰問答は、私たちが自分のお金で物を買ったとしても、それが貪欲から出たものであり不必要な浪費であれば、盗みとなると教えています。神の賜物として与えられているこの世の資源には限りがあります。それを自己中心の思いで必要以上に浪費するならば、他の人や次世代の人が利用できるものを盗んでいることになるのです。私たちは何が必要で何が不必要なのかを神に祈りつつ、必要なものは購入し、感謝して用いたいと思います。

問 111

④隣人の利益のために エペソ 4 : 28

第8戒は、単に人のものを盗まなければ、それでよいと教えているのではありません。むしろ、積極的に隣人の利益のために、隣人の必要が満たされるために人に与える生き方をすべきことを教えています。私たちに与えられているものを、隣人を助けるために用いることを教えているのです。自分にしてもらいたいことを他の人にもするという黄金律(マタイ 7 : 12)が第8戒のゴールです。

第四三主日

問 112

①第9戒 「偽りの証言をしてはならない。」出エジプト20：16

第9戒は、まず法廷における偽りの証言を禁じています。法廷において偽証することは、被告人に対して重大な不利益を生じさせるばかりか、神と人を欺くことになります。さらにこの戒めは、法廷における偽証だけでなく、日常生活における嘘、陰口、中傷、また一方的に人を裁くことも戒めています。法廷においても日常生活においても、嘘をついてはならないことを神は命じておられるのです。

②悪魔の業 ヨハネ8：44

人間はなぜ嘘をつくのでしょうか。信仰問答はあらゆる嘘やごまかしは悪魔の業そのものであると教えています。最初の人アダムが悪魔の誘惑に負け、神に背いて罪を犯した時から、この世に偽りが入り込んできました。悪魔は偽り者であり、偽りの父です。この悪魔の支配下に入れられた時から、人間も偽る者となってしまったのです。偽りの父である悪魔の業を遠ざけるためには、悪魔に勝利された主イエスを信じ、主の助けをいただかなければなりません。

③真理を愛し正直に語る エペソ4：25

主イエスは、十字架上で私たちの罪を贖い、悪魔に勝利されました。ですから、イエスを救い主と信じる時に、私たちの罪は赦され、悪魔の支配下から神の支配下に移されるのです。そして、真理に属し、真理を語る者とされます。神を愛する者は、神を欺くことを願わず、神の前に正直に生きることを願います。そして、その生き方が、人の前にも正直に生きる生き方へとつながるのです。もちろん、救いの完成途上にあるキリスト者は罪を犯すことがあります。その時には、罪を悔い改め、主の十字架の赦しを信じ、主の助けをいただいて、真理の道を歩み続けることが大切です。

④隣人の栄誉と威信のため I ペテロ3：8、9

第9戒は、私たちが偽りの言葉で隣人をおとしめてはならないことを教えるとともに、むしろ、隣人の栄誉と威信を増すために、自分の力を尽くすべきことを教えています。私たちが隣人を愛し、私たちの言葉をもって、隣人を祝福することを教えているのです。私たちが、隣人のために祝福を祈る者となる時、私たちも偽りの言葉から守られて、神の祝福にあずかる者とされるのです。

第四主日

問113

①第10戒 「欲しがってはならない。」出エジプト20：17

第10戒は、人のものをむやみに欲しがり、そして自分のものにする行為を戒めています。欲しがることは心の中の欲望です。しかし、もし私たちの心の中に罪の欲望を入り込ませ、そのままにしておくと、やがて欲望は心の中で燃え上がり、ついには制御できなくなって、人のものを盗む行動にまで移ってしまいます。ですから、まず自分の心を守り、貪欲の罪を心に入り込ませないようにすることが大切です。

②偶像礼拝 コロサイ3：5

人のものをむやみに欲しがり、むさぼる貪欲の罪は、偶像礼拝にほかならないと聖書は教えています。貪欲は、神以外のものによって、心を満たそうとする欲望です。貪欲に陥る人は、物や人やお金によって心を満たそうとし、それらのものがその人にとっての偶像となります。物質主義や拝金主義に潜む貪欲は、私たちをまことの神から引き離す偶像礼拝なのです。

③神とともに生きる幸い ヘブル13：5

神を信じる者は、神の御手の中に守られています。神は、ご自身の民の霊的、精神的、肉体的なすべての必要を満たすために、具体的に助けてくださるお方です。ですから、神が私たちとともにいてくださるなら、私たちは満ち足りて生きることができるのです。たとえ、他の人と比べるなら不足していると思える時にも、主にあって、今持っているもので満足して生きることができるのです。

④義を慕い求める マタイ6：33

キリスト者が慕い求めるべきものは、罪の欲望ではなく、神に喜ばれるあらゆる正しいことです。そして、それは神ご自身を慕い求めることにほかなりません。私たちがまず神の国とその義とを第一に求めるならば、私たちは神の前に正しい生き方をすることができます。また、神はご自分を第一に慕い求める者のすべての必要を満たしてくださると約束しておられます。私たちが神を慕い求めて行くなれば、貪欲から守られ、必要が満たされて、いつも心満ち足りて生きることができるのです。

問114

①戒めを完全守ることができない ローマ7：14，15

キリストを救い主と信じ、神に立ち返った人たちは、十戒を完全守ることができるのかとの質問に対する答えは、「いいえ」です。どんなキリスト者も十戒を完全守ることはできません。使徒パウロも、自分が罪人であることを絶えず意識し、自分ではしたくない悪を行っていると言っています。この世においては、キリスト者はどんなに信仰を成長させ、聖化の恵みにあずかったとしても、神の戒めを完全守ることはできません。

②戒めに従って生き始めた ペリピ3：12

では、信者と未信者との違いは何でしょうか。それは、信者は戒めに従って生き始めたのに対し、未信者はいまだ戒めに従う生活を始めていないということです。この違いは、その人が救われているか、いまだ救われていないかの大きな違いです。キリストによって救われた人は、みことばを喜びとし、みことばに従う人生をすでに始めているのです。そして、みことばに従う人生を始めた人だけが、やがてみことばを完全に守れる状態となる救いの完成、即ち栄化に至ることができるのです。

問 115

③罪深さを知って、赦しと義を求める ローマ5：20

神のことは、語る者にも聞く者にも、聖なる神の前でいかに自分が罪深い者であるかを知らせます。けれども、自分の罪深さを知った人が、自分の救いを疑ったり、みことばを語る資格がないと考えたりすることは、神のみこころではありません。かえって、私たちが自分の罪深さ知れば知るほど、より熱心にキリストにある罪の赦しと義を求めるようになることが、神のみこころなのです。私たちが罪を犯しても、キリストの恵みの赦しは私たちのために十分備えられているのです。

④聖化と栄化 Iヨハネ3：2，3

私たちはキリストによって救われ、義認の恵みを受けた時から、救いの完成である栄化の目標を目指して歩み始めます。そして、栄化までの信仰生活の道のりが聖化です。聖化は、次第次第に、いよいよ神のかたちへと新しくされていく救いの成長の過程です。この聖化の恵みにあずかるためには、自分自身もみことばに従う生活に励むとともに、聖霊の助けを絶えず祈り求めることが必要です。聖化は、みことばと祈りによって与えられる聖霊の助けによって成し遂げられるのです。

祈りについて

第四五主日

問 116

①感謝の祈り Iテサロニケ5：16－18

神は、私たちが神に感謝することを求めておられます。そして、祈りは神への感謝を表す最もすぐれた方法なのです。もちろん、祈りには神に願う要素もあります。けれども、願い中心の祈りだと、願い事がある時には祈るが、願い事がない時には祈らなくなってしまうのです。しかし、祈りとは神の恵みを感謝することであり、感謝と願いが祈りの中で一つになっていくことが大切です。そのような祈りを神は聞いてくださり、私たちにご自分の恵みと聖霊の助けを与えてくださいます。

問 117

②唯一まことの神への祈り Iヨハネ5：14，15

神に聞かれる祈りとは、第1に、唯一まことの神に向かって祈られる祈りです。神は私たちがまことの神を知ることができるように、聖書によってご自身を啓示してくださいました。私たちは、聖書によってのみ唯一まことの創造者なる神を知ることができます。また、神は聖書によって、私たちが何を祈り求めるべきかを教えてくださいました。ですから、私たちは、まことの神にみこころにかなった祈りをするのが大切です。

③へりくだる祈り ルカ18：13，14

神に聞かれる祈りとは、第2に神の前にへりくだる祈りです。私たちは聖なる神の前に出る時、自分の霊的乏しさと悲惨さを悟ります。そして、自分が十戒を一つも守ることのできない罪人であることと、自分自身の義をもっては、神の前に出ることができない存在であることを知ります。その結果、神の前にへりくだり、砕かれた悔いた心をもって、ただ神のあわれみにすがります。けれども、神はこのような祈りを喜び、聞いてくださるのです。

④主キリストによる祈り ヨハネ14：13，14

神に聞かれる祈りとは、第3に主キリストによる祈りです。罪人の私たちは、本来、神に祈りを聞いてもらうにふさわしい者ではありません。けれども、私たちがそれに値しないにもかかわらず、ただ主キリストのゆえに、神は私たちの祈りを聞いてくださるのです。なぜなら、キリストは私たちの罪を贖い、私たちの大祭司として、神の御前に絶えずとりなしてくださるからです。私たちがキリストの約束を信じて、主の御名によって祈るなら、神は私たちの祈りを聞いてくださいます。

問 118

①必要なすべてのこと ヤコブ 1 : 17

神は私たちの霊的および肉体的な必要をすべてご存じであり、それを私たちに与えることができるお方です。霊的必要とは、キリストによってもたらされる罪の赦し、永遠のいのち、聖霊の助け、信仰、みことばと祈りなど神との親しい交わりに生きるために必要なすべてのものです。また、肉体的必要とは、私たちが地上にあって人間として生きるために必要な衣食住や経済的、社会的、知的、能力的、精神的な必要などです。キリストは、私たちのすべての必要を満たしてくださる神にどのように祈ればいいのかを、主の祈りによって教えてくださいました。

問 119

第四六主日

問 120

②祈りの土台 ヨハネ 1 : 12

キリスト者の祈りには祈りの土台があります。その土台とは神がキリストを通して私たちの父となられ、私たちが神の子どもとされていることです。私たちが神を「われらの父よ」と呼びかける時、私たちは自分が神の子どもであり、神が私たちの父であることを思い起こさせてくれます。そして、私たちの心に、父なる神への畏れと信頼を与えてくれます。私たちが、神を私たちの父として畏れ、敬い、信頼することが私たちの祈りの土台となります。そして、神と私たちの関係が親しい父と子の関係であるので、神は私たちの祈りに答えてくださると確信することができるのです。

問 121

③天におられる父 マタイ 7 : 11

私たちの父なる神が天におられるとは、神は地上のあらゆるものを超越しておられ、地上のものでは現すことのできないほどの威厳に満ちたお方であるということです。神の威厳とは、神の聖なる栄光であり、神の主権や全能の力をも表しています。神はすべてのものをみこころのままに支配する権威を持っておられる全能の主なので、私たちのすべての必要を与えてくださることができるのです。神が私たちの天の父であるので、私たちは自分の必要を、確信をもって神に祈り求めることができるのです。

第四七主日

問 122

①神の御業 詩篇 105 : 1, 2

神の御名は神ご自身を表します。私たちが神をあがめるためには、第1に神を正しく知ることが必要です。そして、神を正しく知るためには、神のすべての御業、即ち、神の創造の御業と贖いの御業を知ることが大切です。私たちは神の創造の御業のうちに、神の全能、知恵、善、正義、慈愛、真理を見ることができます。神は全能の力と全知の知恵をもって世界を造り、被造物の内に善、正義、愛、真理を現してくださいました。けれども、人間は罪を犯し、神の前から墮落してしまいました。そこで、神は私たちを愛するゆえに、御子をこの世に送り、私たちの罪の贖いをキリストの十字架の死をもって成し遂げてくださいました。私たちはキリストの十字架と復活による贖いの御業のうちにも、神の全能、知恵、善、正義、慈愛、真理を見ることができるのです。

②神を賛美する ヘブル 13 : 15

「御名があがめられますように」とは、神を聖なるお方として礼拝し、賛美できるようにさせてくださいという祈りです。私たちが神の創造の御業を知り、キリストによる贖いの御業を個人的に経験する時に、心から神をほめたたえる者とされます。第1の願いは、私たちが生涯、神の御業を覚えて、聖なる神を私たちのくちびるを通して賛美する者とならせてくださいと祈るのです。聖なる神は賛美されるにふさわしいお方なのです。

③人間の業 マタイ 5 : 16

私たちが神をあがめるためには、第2に私たちの業が正されることが必要です。私たちは単にくちびる

だけで神を賛美するのではなく、自分の生活のすべて、即ち、自分の思いと言葉と行いによって神があがめられることを求めることが大切です。私たちは、自分の罪深さのゆえに、生活を通して神の御名を汚してしまう危険性があることを知っています。だからこそ、御名を汚すことがないように、私たちの全生活が神の前に正され、私たちの生活を通して御名があがめられるように祈り続けることが必要なのです。

④神の栄光を現す I コリント 10 : 31

私たちは第1の願いによって、私たちのすべての生活を通して神があがめられ、賛美されるようにしてくださいと祈ります。言い換えれば、全生活を通して、神の栄光を現すことができるようにしてくださいという祈りです。神の栄光のために生きることは、キリスト者の最大の目的です。この目的を果たす者とならせてくださいと祈るのです。そして、私たちにではなく、神にのみ栄光が帰され、神だけが賛美されるように祈るのです。この祈りは、主の祈りの最初の祈りとしてまことにふさわしい祈りです。

第四八主日

問 123

①御国の完成 II ペテロ 3 : 13

御国とは原語では「あなたの国」であり、神の国のことです。そして、「国」とは支配を意味する言葉なので、御国とは神の支配を意味しています。この神の支配の完成は、神がすべてのすべてとなられる新しい天と新しい地が来る時にもたらされます。そして、その新天新地の永遠の御国は、キリストの再臨によってもたらされます。私たちは、主の再臨を待ち望みながら、神のご支配が完成する永遠の御国が来ますようにと祈るのです。そして、さらに、御国の完成に至るまでに、3つの点において具体的に「神の支配が来ますように」と祈ることが教えられています。

②私たちに対する神の支配 ヨハネ 14 : 26

第1に私たちに対する神の支配を祈ります。「神の支配が私たちに来ますように。神が私たちを支配してください。そして、私たちが神に従う者とならせてください。」という祈りです。神はみことばと聖霊によって私たちを支配されるお方です。ですから、聖霊が解き明かしてくださるみことばに、私たちが従って生きるならば、神の支配は私たちのうちに実現します。ですから、私たちがみことばと御霊に従う者となり、神が私たちのすべての領域を支配し、治めてくださいと祈り求めることが大切なのです。

③教会に対する神の支配 マタイ 16 : 18

第2に教会に対する神の支配を祈ります。「神の支配が教会に来ますように。教会が神のみこころに従い、この世にあって御国を実現する群れとならせてください。」という祈りです。私たちは、教会が神のご支配の中に保たれるために、絶えずみことばと聖霊に従っていけるようにと祈り求めます。また、教会の進展のためにも祈ります。これは伝道のための祈りです。教会が福音を全世界の人々に伝え、その結果、多くの人々が悔い改めキリストを信じて救われるように、そして、教会が建てられ、教会が大きく成長するようにと祈るのです。

④すべての悪に対する神の支配 ローマ 16 : 20

第3にすべての悪に対する神の支配を祈ります。「すべての悪を神がご支配くださり、神がすべての神に逆らう悪の企てを滅ぼしてください。」という祈りです。悪魔は、御国の完成の時まで、神の支配が実現することを妨げるために、神に敵対し悪のわざを行います。そして、その悪の企てに私たちをも巻き込もうとします。ですから、私たちは、「みことばに反するすべての悪の企てを滅ぼしてください、そして、私のうちにあるすべての悪を滅ぼしてください。」と祈ることが必要なのです。このように祈っていくならば、私たちは悪から守られ、神の支配の中に生きていくことができます。

第四九主日

問 124

①私たちやすべての人々 I テモテ 2 : 4

主の祈りの第3の願いは、私たちやすべての人々が、神のみこころに聞き従えるようにしてくださいという祈りです。私たちとは、すでにキリストを救い主と信じているキリスト者のことです。けれども、キリスト者だけがみこころに従うことで十分ではないのです。神はすべての人が救われて、真理を知り、みこころに聞き従う者となることを望んでおられるのです。そのことを覚えて、私たちは未信者の救いのために祈り、伝道の働きを通して、神のみこころになることを祈ることが大切です。

②自分の思いと神のみこころ ルカ 22 : 42

みこころに聞き従う者となるためには、私たちは自分自身の思いを捨て去らなければなりません。唯一正しい神のみこころは私たちの思いと異なり、常に最善のものです。私たちの思いはみこころよりも常に低く、また、みこころに逆らいさえます。キリストは十字架を前にして、できるならば十字架の苦しみを避けて通りたいとの自分の思いを表されましたが、その思いを捨ててみこころがなるようにと祈られました。そして、みこころに従って十字架で私たちのために死なれました。ですから、私たちもキリストに従い、自分の思いを捨てて、みこころに従う者とならせてくださいと祈るのです。

③自分の務めと召命 II テモテ 4 : 5

私たち一人一人は、神の召しを受けてそれぞれの自分の務めを与えられています。主婦、学生、会社員、公務員、商売や農業に従事する者、伝道者等、また教会でも様々な奉仕の務めが与えられています。そのような自分の務めを、自分の思いで成し遂げようとするのではなく、神のみこころに聞き従い、みこころが自分の務めと召命においてなされることを祈っていくことが大切です。その時、神のみこころが私たちの遣わされている持ち場においてもなされていくのです。

④天の御使いのように 詩篇 103 : 20, 21

「みこころが天で行なわれるように」と祈る時、天においては神のみこころを行うために、喜んで忠実に神に仕える御使いがいることを覚えます。そして、天では御使いがいるように、地では神のみこころを行うために、私たちがいるということに目を留めることができます。その時、私たちは、地でもみこころが行われるために、私たちが喜んで忠実に神に仕える者とならせてくださいと祈るのです。神は天ではみこころを行うために御使いを用い、地ではみこころを行うために私たちを用いてくださるのです。

第五〇主日

問 125

①肉体的に必要なすべてのもの マタイ 6 : 31－33

第4の願いは、私たちの肉体的に必要なすべてのものを備えてくださいという祈りです。肉体的に必要なすべてのものとは、食べ物に限らず、着る物も住む所も経済的必要も人間的な援助も、私たちが人間として生きるために必要なすべてのもののことです。イエスは、すべての私たちの必要を天の父なる神に祈り求めるようにと教えられたのです。

②唯一の源 ヤコブ 1 : 17

なぜ私たちはすべての必要を神に祈り求めるべきなのでしょう。それは、神こそが良きものすべての唯一の源であられるからです。私たちは、生活の必要を得るためにいろいろと心配りをし、一生懸命働きます。そして、それは聖書も教えていることです。けれども、健康が与えられなければ働くことはできません。太陽が照り、雨が降らなければ作物は実りません。すべての良き賜物は神から来るのです。ですから、私たちはすべての必要を神に祈り求めるのです。

③神の祝福 詩篇 37 : 16

では、すべての必要が満たされれば、私たちはこの祈りを祈らなくても良いのでしょうか。そうではありません。どんなに必要が満たされ、物質的に豊かになったとしても、神の祝福なしには私たちの益とらないのです。私たちの益になるとは、神から与えられたものを感謝し、神を賛美して喜んで生きることであり、また神の栄光を現すために与えられたものを生かして用いることです。どんなに豊かであっても、神のために用いなければ、それは空しいものであり、私たちの益にならないのです。すべてのものが私たちの益になるためには、神の祝福が必要なのです。ですから、私たちは神から与えられたものを、私たちの益とするために神の祝福を祈り求めなければなりません。

④神にのみ信頼する マタイ 4 : 4

神の祝福をいただき、私たちが神との正しい関係に生きるためには、霊の糧である神のことばをいただく必要があります。私たちが神のことばの祝福の中に生きる時に、物質的なものに信頼を置くのではなく、すべての祝福の源である神にのみ信頼して生きる者とされます。ですから、私たちは霊の糧である神のことばを日ごとにいただき、神の祝福の中に生きることを求めなければなりません。そして、神は肉体的な必要も与えてくださることを信じ、それらの必要のためと、与えられたものを神の栄光を現すために感謝して用いることを祈りたいと願います。

第五一主日

問 126

①はじめな罪人 詩篇 51 : 3, 4

キリスト者は救われても、今なお罪を犯し続けて生きているはじめな罪人です。過失とは思いがけなく行ってしまう過ちであり、悪とは初めから意図して行う過ちです。それらの罪が、生涯キリスト者にまわりついてくるのです。救われているのになお罪の思いを持ち、それを意図的に行ってしまうはじめな現実に私たちは生きているのです。

②キリストの血のゆえに Iヨハネ 2 : 1, 2

罪とは負い目、負債のことであり、神に対する罪の負債はそれに見合う償いをもって返さなければならぬものです。けれども、私たちは自分で罪の償いをして、負債を神に返済することができません。神は、そのような私たちが罪のゆえに滅びることを望まず、御子イエスを遣わしてくださいました。そして、キリストが私たちの罪を償うために尊いご自身の血を十字架で流してくださったのです。ですから、私たちはキリストの十字架の贖いを信じ、キリストの血のゆえに、私たちの罪の負い目をお赦しくださいと祈る時、神は私たちの罪を赦してくださるのです。

③神の恵みの証し コロサイ 1 : 14

神の恵みとは、キリストの血によって、私たちの罪が赦されたことです。キリストが私たちの罪の責めを負ってくださったので、私たちは自分の罪の責めを負う必要がなくなったのです。私たちのすべての過失と悪は、キリストの血のゆえに数えられなくなりました。このすばらしい神の恵みの証しを、キリスト者は自分の内に見出します。神の赦しの証しが私たちの中に始まっているのです。この私たちの内にすでに始まっている神の赦しの証しが、隣人を赦す理由であり動機なのです。

④隣人を赦す マタイ 6 : 14, 15

主の祈りは、人を赦すことが、神の赦しをいただく条件であると教えているものではありません。そうではなく、人を赦すことは、神に赦されている者が当然果たすべき証しであるということです。私たちが、自分の内に神に赦されている恵みの証しを見出す時、神の赦しの大きさを実感します。私たちは、「私の罪を私の責任としないで、キリストの責任としてください。キリストの血によって、私の罪を赦してください。」と祈ることができ、神はその通りに赦してくださいます。その神の恵みのすばらしさを覚える時に、「私も隣人の罪を赦します。」と決心することができるのです。そして、神の赦しの恵みのすばらしさを証しする者となるのです。

第五二主日

問 127

①戦う私たち 詩篇 103 : 14

信仰問答は、この祈りをキリスト者の霊的戦いの祈りにとらえています。まず、戦う私たちとはどのような者でしょうか。私たちはあまりに弱く、ほんのひと時立っていることさえできない者なのです。私たちは、試みに打ち勝ち、悪に対して勝利する力を自分の内に持ち合わせていない弱い者です。また、神の助けなしには、ほんのひと時も堅く信仰に立つことができない弱い者なのです。だからこそ、私たちは神の助けを祈り求めなければならないのです。

②私たちの敵

1) 悪魔 エペソ 6 : 12

私たちが戦うべき第1の敵は悪魔です。悪魔は神に敵対し、私たちを神から引き離そうと絶え間なく攻撃してくる私たちの最大の敵です。また、悪魔は自分のしもべである悪霊たちを用いて私たちを誘惑し敵対してきます。

2) この世 ヨハネ 15 : 18

私たちが戦うべき第2の敵はこの世です。世とは、罪によって墮落し神に敵対する世界であり、生まれながらの人はこの世に属しています。世に属する者は、神とキリストに敵対して生きているので、世から選び出されたキリスト者にも敵対するのです。

3) 私たち自身の肉 ガラテヤ 5 : 17

私たちが戦うべき第3の敵は、私たち自身の肉です。肉とは肉体のことではなく、私たちのうちにある古い自己中心の罪の性質です。肉の願いは絶えず御霊に逆らいます。このように、私たちは自分自身の

内に御霊に逆らう肉という敵を持っているのです。

③敵に打ち勝つ方法 マタイ 26 : 41

弱い私たちが、悪魔とこの世と肉の力に打ち勝つためには、どのようにすればよいでしょうか。霊的戦いに打ち勝つ方法は祈りです。そのことをキリストは主の祈りの中で教えてくださいました。私たちは聖霊の助けを祈り求めます。そして、私たちの弱い力ではなく、聖霊の力によって強められ、私たちの敵に抵抗し、この霊の戦いに勝利することを祈り求めるのです。キリストは悪魔にもこの世にも打ち勝たれました。(マタイ 4:1 - 11、ヨハネ 16:33) また、自分の願いと戦って勝利され、父なる神のみこころに従われました。(マタイ 26:39) 私たちはどんな時にも聖霊の助けを祈り求め、悪に打ち勝つ信仰生活を歩みたいと願います。

問 128

①祈りを聞かれる神 ヨハネ 14 : 13

私たちは、主の祈りによって様々なことを祈り求めます。そして、神は私たちの祈りを聞き、祈りに応えてくださいます。なぜなら、神はすべての良きものを与える力があり、また私たちに与えることを願われる王だからです。イエスは、私たちの祈りを聞かれることによって、父なる神が栄光をお受けになると教えられました。主の祈りは、私たちに、祈りが聞かれることを最終目標とするのではなく、祈りを聞いて下さる神に栄光が帰されることを、祈りの最終目標とすることを教えています。

②豊かに施す神 エペソ 3 : 20, 21

私たちは、「日ごとの糧をきょうもお与えください」と祈ります。それは、単に、私たちの必要が満たされるための祈りではなく、私たちが神の栄光のために生きるための祈りです。神は私たちの願うところ、思うところのすべてを超えて豊かに施すことのできるお方です。その神に感謝し、賛美をささげる時、私たちは神の栄光を現して生きる者となることができるのです。

③あがめられるべき神 I 歴代 29 : 11

私たちは、主の祈りの最初に「御名があがめられますように」と祈り、最後に「国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです」と祈って、神の御名をあがめ、一切の栄光を神に帰します。ダビデも、ソロモンに王位を継承する時に、自分に栄光を帰することなく、一切の栄光を神に帰し、神をほめたたえました。神はこのような信仰を持つダビデを祝福し、王としてダビデを生涯用いられたのです。

④神にのみ栄光あれ 詩 115 : 1

私たちは、主の祈りによって、「わたしたちではなく、あなたの聖なる御名が永遠に讃美される」ことを祈り求めます。詩篇 115 篇も「私たちにではなく、私たちにではなく、栄光をただあなたの御名にのみ帰してください」と祈ります。バッハはすべての作品の最後に SDG と書きました。それは「神にのみ栄光あれ (SOLI DEO GLORIA)」を意味する頭文字です。バッハは作曲した自分に栄光が帰されるのではなく、彼の作品を通して神にのみ栄光が帰されることを願ったのです。これこそ、私たちの祈りの目標であり、私たちの人生の目標です。

問 129

①それは本当です I コリント 14 : 16

アーメンとは、「真実、まこと、確実、確か、本当」という意味の言葉です。元々は、語られたことに対して強制的に同意を表す言葉として用いられました。祈りの最後にアーメンと言う場合は、「今自分が祈ったことは本当です、真実です」という、私たちの信仰の告白として用います。また、他の人の祈りに対して、アーメンと共に告白することによって、その人の祈りを、さも自分のものであるかのように心から同意して、共に祈ります。

②真実、アーメンの神 II テモテ 2 : 13

信仰問答は、さらに深いアーメンの意味を解き明かします。それは、祈りの最後のアーメンは、私たちの祈りの確かさよりも、さらに確かに私たちの祈りを聞いて下さる真実でアーメンの神を思って、アーメンと告白するということです。私たちの祈りは言葉足らずで、不確かなものです。また、私たちの信仰も弱く、小さいものです。そのような私たちの祈りを、真実でアーメンの神は確かに聞いてくださいます。そのことを信じてアーメンと言うのです。

③祈る前から聞かれる神 イザヤ 65 : 24

神は、私たちが神を呼ぶ前から答えてくださり、祈る前から私たちの祈りの内容をすべてご存じであり、聞いてくださるお方です。神は、それほどまでに、私たちの祈りを確かに聞き、受け入れてくださっています。私たちのアーメンは、私たちの祈りを聞かれる真実な神に対する応答です。祈りにおける私たちの真実にはるかにまさる神の真実を覚えて、アーメンと応答するのです。

④神に栄光を帰す II コリント 1 : 20

私たちは、主の祈りによって、祈りとは神を賛美し、神に栄光を帰すことであることを学びました。祈りの最後の言葉であるアーメンも、私たちの祈りを聞いてくださる真実でアーメンの神を賛美し、神に栄光を帰す言葉です。神はキリストによって、私たちの祈りを聞くばかりか、私たち自身を受け入れてくださっています。私たちは主イエス・キリストのものなのです。そして、そこにこそ私たちのただ一つの慰めがあるのです。この神の真実さ、確かさを覚え、祈りのたびにアーメンと言って、アーメンの神をほめたたえ、神に栄光を帰すのです。信仰の確信をもって、祈りのたびにアーメンと神に応答し、神を賛美し、神に栄光を帰しましょう。